

第5章 計画の内容

第1節 地域からはじめる子育て環境づくり

1. 多様なニーズに対応した保育サービスの推進

主要施策

- 〔1〕子育て家庭に対する多様なサービスの充実
- 〔2〕保育所運営の充実・支援

【主要施策】

〔1〕子育て家庭に対する多様なサービスの充実

在宅で保育を行う家庭やひとり親家庭などを含むすべての子育て家庭の子育てに対する負担を軽減し、気持ちにゆとりを持って子育てができる子育て支援サービスの充実を図ります。また、就労形態の多様化や地域の保育ニーズに対応するため、弾力的できめ細かな保育サービスの提供に努めるとともに、在宅での子育て家庭のニーズにも対応した保育サービスの充実を図ります。

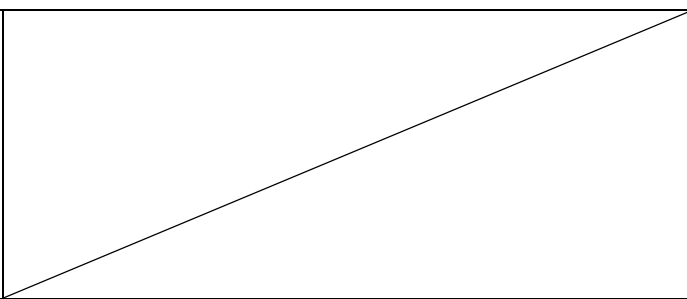
(1) 地域の子育て家庭のための子育て支援サービスの充実

主要な施策（事業）	取組み方針	グループ	平成21年度評価	平成22年度評価
ファミリー・サポート・センター事業の推進	北部子育て支援センターを拠点に、「子育てを応援したい人」と「子育てを応援してほしい人」を会員とした相互援助活動の推進を図ります。 また、事業の普及啓発・研修活動を推進し、登録会員数の増加や育児支援の利用促進を図ります。	福祉グループ	北部子育て支援センターを拠点に活動。平成22年3月末現在、提供会員61人、依頼会員487人、両方会員7人、活動件数はのべ1,027件(前年比48件減、複数預かり含む) 減の理由としては、新型インフルエンザによる休校、学級閉鎖によるキャンセルがあげられる。 また、新規提供会員養成講座を実施し9名が受講した。	北部子育て支援センターを拠点に活動。平成23年3月末現在、提供会員63人、依頼会員560人、両方会員7人、活動件数はのべ851件(前年比176件減、複数預かり含む) 減の理由としては、継続利用の子どもの年齢が利用対象年齢から外れたり、年齢が上がるにつれ依頼回数が減ってきていることがあげられる。 また、新規提供会員養成講座および既存会員交流講座を実施し延23名が受講し2名の新規登録があった。
子育て家庭ショートステイ事業	保護者が病気等の理由により児童の養育ができない場合、児童養護施設等で短期間預かる事業。 また、ドメスティック・バイオレンス(DV)による暴力から母子を保護する観点からも、今後も関係施設と連携し、継続実施します。	福祉グループ	平成21年度中における利用実績はなかったが、緊急時の子育て家庭支援として、引き続き実施する。	平成22年度は1件の利用があった。 今後も緊急時の子育て家庭支援として、実施していく。
一時預り事業の実施	保護者の急用や病気等の事態に柔軟に対応する保育サービスですが、本町の場合、短時間・非定型での利用ニーズが比較的高くなっています。 今後はニーズの動向を十分見極め、実施施設への支援を行いながら事業実施に努めます。	福祉グループ		これまで「一時保育事業」として町内4園で実施していたが、平成20年児童福祉法の一部改正により、第2種社会福祉事業として位置づけられたため、「一時預かり事業」として平成22年度より、播磨保育園でのみ実施する。のべ利用人数は334人である。

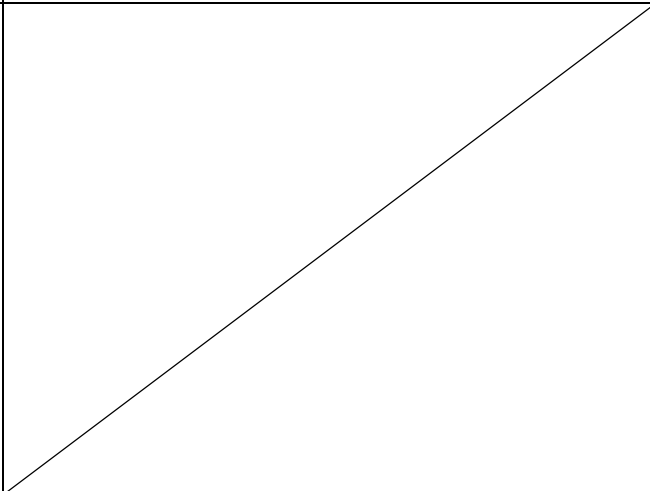
<p>子育て支援センター事業の充実</p>	<p>子育てに関する相談や、子育てサークルへの支援、情報提供、講座の開催などを通じ、子育て家庭の育児不安の解消を図ります。</p>	<p>福祉グループ</p>	<p>南北子育て支援センターとも、子育て親子が気軽にかつ自由に利用できる交流の場を設け、随時、子育て相談、情報提供、講習会を実施した。また、臨床心理士を配置した相談を実施し、心理面からのケアの充実を図った。 平成21年度は、0歳児、1歳児、2歳児それぞれの年齢毎に講座を開催し、実情に即した内容であったと好評を得ている。 平成21年度、南北支援センターに寄せられた相談件数はのべ812件、臨床心理士につないだ相談件数はのべ55件となっている。</p>	<p>南北子育て支援センターとも、子育て親子が気軽にかつ自由に利用できる交流の場を設け、随時、子育て相談、情報提供、講習会を実施した。また、臨床心理士を配置した相談を実施し、心理面からのケアの充実を図った。 平成22年度は、0歳児、1歳児、2歳児それぞれの年齢毎に講座を開催し、実情に即した内容であったと好評を得ている。 平成22年度、南北支援センターに寄せられた相談件数はのべ929件、臨床心理士につないだ相談件数はのべ34件となっている。</p>
-----------------------	---	---------------	---	---

(2) 働く家庭の支援のための各種保育サービスの充実

主要な施策(事業)	取組み方針	グループ	平成21年度評価	平成22年度評価
<p>病児・病後児保育</p>	<p>保育所や病院に設けられた専用スペースにおいて、病状が急変する見込みのない児童や、病気の回復期にある児童の保育を行います。</p>	<p>福祉グループ</p>	<p>平成21年度から、病後児保育(オープン型)として、播磨中央保育園のみで、定員2人で実施し、のべ利用件数は18件であった。</p>	<p>平成21年度から、病後児保育(オープン型)として、播磨中央保育園のみで、定員2人で実施している。平成22年度のべ利用件数は36件であった。</p>
<p>通常保育事業の充実</p>	<p>働く親のニーズに柔軟に対応し、待機児童が発生しないよう保育定員の適切な管理に努めます。</p>	<p>福祉グループ</p>	<p>平成22年3月31日現在、弾力的な運用により町内保育園で729人入所しており、待機児童は発生しなかった。 今後も待機児童が発生しないよう、適切な定員管理に努める。</p>	<p>平成23年3月31日現在、弾力的な運用により町内保育園で728人入所しており、待機児童(国基準)は4人発生した。今後の需要動向をみながら、定員増も含めて、適切な定員管理に努める。</p>
<p>発達障がい児・障がい児保育事業の充実</p>	<p>心身に障がいのある子どものそれぞれの個性を尊重し、一人ひとりの障がいや能力に応じた保育内容の充実に努めます。また、障がいのない子どもと交流することで互いを理解し合い、人権意識を高められるよう関係機関と連携し、事業の充実に努めます。</p>	<p>福祉グループ</p>	<p>平成21年度実績 蓮池保育園：1名受入れ 播磨保育園：3名受入れ 播磨中央保育園：1名受入れ 今後も引き続き、申し込みに応じて実施する。</p>	<p>平成22年度実績 蓮池保育園：1名受入れ 播磨保育園：3名受入れ キュービット保育園：1名受入れ、 播磨中央保育園：1名受入れ 今後も引き続き、申し込みに応じて実施する。</p>
<p>延長保育事業の充実</p>	<p>保護者の就労形態の多様化などに伴い、ニーズの動向を踏まえながら、柔軟に保育時間を確保します。</p>	<p>福祉グループ</p>	<p>平成21年度：2園で午後8時まで実施 蓮池保育園 (利用実績：1時間延長2,079人、2時間延長513人) キュービット保育園 (利用実績：1時間延長2,556人、2時間延長3,257人) 平成22年度も引き続き実施する。</p>	<p>平成22年度：2園で午後8時まで実施 蓮池保育園(利用実績：1時間延長2,207人、2時間延長574人) キュービット保育園(利用実績：1時間延長2,784人、2時間延長2,445人) 平成24年度は、一部延長時間を変更して引き続き実施する。</p>
<p>休日保育事業の実施</p>	<p>休日保育については、需要動向をみながら「拠点保育所」方式での実施を検討します。</p>	<p>福祉グループ</p>	<p style="text-align: center;">/</p>	<p>現在、休日保育を実施している保育所はないので、今後、需要動向をみながら、実施を検討する。</p>

<p>広域入所保育事業の実施</p>	<p>多様化する保育ニーズに対応し、保護者の利用便宜を図るため、隣接の市町と連携し、引き続き居住地以外の保育所での保育に努めます。</p>	<p>福祉グループ</p>		<p>保護者の勤務先付近の保育所入所を希望する場合など、広域入所保育については、近隣市町と連携し、実施している。平成23年3月31日現在の町外保育所入所人数は、35人である。</p>
--------------------	---	---------------	---	---

(3) 放課後児童健全育成事業の充実

<p>主要な施策(事業)</p>	<p>取組み方針</p>	<p>グループ</p>	<p>平成21年度評価</p>	<p>平成22年度評価</p>
<p>学童保育事業の充実</p>	<p>昼間、家庭に保護者のいない児童が安心して過ごせる環境を確保し健全な育成を図るため、学童保育に対する支援の充実に努めます。 また、指導員の資質の向上や、活動内容の充実に努めるとともに、安定した運営体制の充実に努めます。</p>	<p>福祉グループ</p>	<p>平成21年度も4小学校5カ所を実施。また、今までの施設整備により、全小学校において専用施設の整備が完了している。 教育委員会が所管する放課後子ども教室事業との連携を検討しながら、学童保育連絡協議会等とともに運営体制や学童保育の公設化、施設整備について協議・検討した。今後も、引き続き必要な支援を行う。</p>	<p>平成22年度も4小学校5カ所を実施。また、今までの施設整備により、全小学校において専用施設の整備が完了している。 教育委員会が所管する放課後子ども教室事業との連携を検討しながら、学童保育連絡協議会等とともに運営体制や学童保育の公設化、施設整備について協議・検討した。(平成24年度から公設化を実施。)</p>
<p>子どもの活動の活性化</p>	<p>コミュニティセンターや学校を拠点に子ども会や老人会などと連携し、放課後、児童に楽しい遊び場を提供するとともに、児童と高齢者など多世代がふれあえる機会の充実に努めます。</p>	<p>生涯学習グループ</p>	<p>「放課後子ども教室」を蓮池、播磨、播磨西小学校で実施し、さまざまな体験活動や交流活動を地域の方々や各種協会・サークルと連携し、活動指導に取り組んだ。</p>	<p>「放課後子ども教室」を全小学校の3年生を対象に実施し、さまざまな体験活動や交流活動を地域の方々や各種団体・サークルと連携して取り組んだ。</p>
<p>すべての子どもへの放課後児童対策</p>	<p>放課後に異年齢の子ども同士で遊んだり交流したりする機会が少なくなり、また子どもが安心して過ごせる場所の確保が困難になってきたことから、放課後の子どもの居場所づくりなど、児童の健全な育成を図ります。</p>	<p>生涯学習グループ 福祉グループ</p>		<p>【生涯学習グループ】 「放課後子ども教室」を全小学校の3年生を対象に実施した、東部コミュニティセンターでは、ロビーの整備を行い、子どもたちが自由に使用できるスペースとして開放した。 【福祉グループ】 南部子育て支援センターにおいて、小学生を受け入れる日を設け、放課後の子どもの居場所の一つとして、異年齢の交流や子どもが安心して過ごせる場を提供している。</p>

〔 2 〕 保育園運営の充実・支援

子どもの人権意識、豊かな感性や創造性を育む保育の充実を図るため、保育の質を確保するとともに、保育ニーズに即した保育園運営を支援します。

(1) 保育園運営に対する支援の推進

主要な施策（事業）	取組み方針	グループ	平成 2 1 年度評価	平成 2 2 年度評価
保育所運営事業の支援	多様化する保育ニーズに十分対応できるよう、民間保育所の機能を高めるため、その運営の支援に努めます。	福祉グループ	多様化する保育ニーズに十分対応できるよう、情報提供等その運営のための支援を行った。今後も引き続き支援を行う。	多様化する保育ニーズに十分対応できるよう、情報提供等その運営のための支援を行った。今後も引き続き支援を行う。
保育士の資質の向上	保育ニーズの多様化、地域の保育所機能の充実に伴い、柔軟な保育対応ができるよう研修や情報提供等を推進し、保育士の資質の向上を支援します。	福祉グループ	保育ニーズの多様化や地域の保育園機能の充実に伴い、柔軟な保育対応ができるよう保育士の資質の向上のため、各種研修に係る情報提供を行った。今後も引き続き情報提供を行うとともに、町内保育所対象の非常勤保育士等への研修を検討する。	町主催の保育士の資質向上のための研修として実施。 講義「発達障がいの子どもの行動理解について」 参加保育士 19 人 絵本講座「絵本で子育て～保育における絵本の役割とその魅力～」 参加保育士 17 人 その他、保育所が独自に行う研修参加等の補助も実施する。 平成 2 3 年度も、引き続き情報提供を行うと共に、各保育園からのニーズを把握し、特に発達に支援を要する児童の保育についての研修を予定している。
施設の整備・充実	安全で快適な保育環境を確保するとともに、今後の保育需要の増加にも十分対応できるよう、各施設と連絡を密にし、改修計画の把握に努めます。	福祉グループ	インフルエンザ対策として、各施設に空気清浄機を配備した。また、平成 2 1 年度においては施設の改修はなかった。引き続き各施設と連絡を密にし、改修計画の把握に努める。 ・ 平成 2 2 年度 〔社福〕播磨福祉会 播磨保育園の改修予定	老朽化に伴う、耐震化改築工事として、平成 2 2 年度〔社福〕播磨福祉会 播磨保育園改築にかかった費用について補助を行い支援した。 今後も、各施設と連絡を密にし、改修計画等の把握に努める。

(2) 地域に開かれた保育園運営の推進

主要な施策（事業）	取組み方針	グループ	平成 2 1 年度評価	平成 2 2 年度評価
地域活動事業の推進	地域の高齢者との交流活動や年齢の異なる子供同士の交流を通じ、児童の人を思いやる心や協調性を育むため、世代間のふれあい交流の推進に努めます。	福祉グループ	町内保育園 4 園で、地域の高齢者との交流や介護老人福祉施設への訪問などの交流活動を実施。平成 2 2 年度以降も引き続き実施予定である。	町内保育園 4 園で、地域の高齢者との交流や介護老人福祉施設への訪問などの交流活動を実施。平成 2 3 年度以降も引き続き実施予定である。 また、保育所や幼稚園に通っていない 2 歳までの子どもとその親を対象に、「乳幼児子育て応援事業」を町内保育園 4 園で実施し、毎週園庭開放や、絵本の読み聞かせ、イベントなどを行い、地域に開かれた保育所運営を行っている。

2. 情報提供・相談支援体制の充実

主要施策

- 〔1〕 相談支援体制の充実と関係機関の連携強化
- 〔2〕 必要かつ的確な情報提供の充実

【主要施策】

- 〔1〕 相談支援体制の充実と関係機関の連携強化

子育て家庭が住み慣れた地域で、安心して子育てに専念できるよう保健・福祉・医療・教育などの各サービスが連携し、総合的な子育て相談支援体制の充実を図ります。

- (1) 子育てに関する相談体制の充実

主要な施策（事業）	取組み方針	グループ	平成21年度評価	平成22年度評価
子育て支援センターの機能の充実	子育て支援センターにおいて、子育てに関する相談・支援の充実に努めるとともに、情報提供、講座の開催などを通じて子育て家庭の育児不安の解消を図ります。 また、臨床心理士を配置した子育て相談を行い相談機能の充実を図ります。	福祉グループ	<p>南北子育て支援センターとも、子育て親子が気軽にかつ自由に利用できる交流の場を設け、随時、子育て相談、情報提供、講習会を実施した。また臨床心理士を配置した子育て相談を実施し、心理面からのケアの充実を図った。</p> <p>加えて、子育て支援活動をする地域活動組織（母親クラブなど）を両センターに設置し、地域における子育てリーダーの養成を推進するとともに、民生児童委員・主任児童委員をはじめ地域の方の協力を得ながら地域交流を通じて、子育て基盤の機能の充実と、子育て家庭の育児不安の軽減を図った。</p> <p>また、平成22年度は北部支援センターの母親クラブの子育てリーダーが中心となって実施している「ニコニコさろん」(身体計測と交流会)に、保健師、栄養士、主任児童委員が参加し、子育て相談、健康教育の充実を図る予定である。</p> <p>なお、平成21年度、南北支援センターに寄せられた相談件数はのべ812件。臨床心理士につないだ相談件数はのべ55件となっている。</p>	<p>南北子育て支援センターとも、子育て親子が気軽にかつ自由に利用できる交流の場を設け、随時、子育て相談、情報提供、講習会を実施した。また臨床心理士を配置した子育て相談を実施し、心理面からのケアの充実を図った。</p> <p>加えて、子育て支援活動をする地域活動組織（母親クラブなど）を両センターに設置し、地域における子育てリーダーの養成を推進するとともに、民生児童委員・主任児童委員をはじめ地域の方の協力を得ながら地域交流を通じて、子育て基盤の機能の充実と、子育て家庭の育児不安の軽減を図った。</p> <p>また、北部支援センターの母親クラブの子育てリーダーが中心となって実施している「ニコニコさろん」(身体計測と交流会)に、保健師、栄養士、主任児童委員が参加し、子育て相談、健康教育の充実を図ることができた。</p> <p>なお、平成22年度、南北支援センターに寄せられた相談件数はのべ929件。臨床心理士につないだ相談件数はのべ34件となっている。</p>

<p>保育所・幼稚園・学校における相談体制の充実</p>	<p>町内の保育所・幼稚園を地域に開かれた子育て支援の施設として位置付け、子育てに関する相談・情報提供機能の充実を図ります。学校においては、スクールカウンセラーなど専門的な相談員による相談事業を実施するとともに、教育相談日を設け気軽に相談できる機会の充実に努めます。また、いじめ、不登校などの悩みに関する相談に応じ、その解消を図るため、適応指導教室、教育相談などの事業の充実に努めます。</p>	<p>福祉グループ 学校教育グループ</p>	<p>【福祉グループ】 地域の中の子育て支援施設として町内の保育園では、子育てに関する相談・情報提供機能の充実を図り、要保護児童対策協議会と連携を強化した。</p> <p>【学校教育グループ】 すべての小中学校でスクールカウンセラーによるカウンセリングを受けることができるようにするとともに、すべての小中学校にスクールアシスタントを配置し、支援体制を整えた。今後は、相談体制の充実が実践的な支援体制の充実かを検討していきたい。幼稚園では登降園時に保護者と担任が話し合う機会を持ち、必要に応じて指導主事が対応した。また、専門機関を紹介することもあった</p>	<p>【福祉グループ】 地域の中の子育て支援施設として町内の保育園では、子育てに関する相談・情報提供機能の充実を図り、要保護児童対策協議会と連携を強化した。</p> <p>【学校教育グループ】 すべての小中学校でスクールカウンセラーによるカウンセリングを受けることができるようにするとともに、すべての小中学校にスクールアシスタントを配置し、支援体制を整えた。ふれあいルームを中核として、不登校をはじめとする教育相談の充実に努めた。幼稚園では登降園時に保護者と担任が話し合う機会や、保護者の悩みに答える場をもった。また、必要に応じて指導主事が対応し、ケースによっては専門機関と連携して対応した。</p>
<p>民生委員児童委員(主任児童委員)活動の活性化</p>	<p>地域の身近な相談窓口である民生委員児童委員(主任児童委員)活動について引き続き啓発・普及を図るとともに、身近な相談相手としてその活動の活性化の支援を行います。また、主任児童委員による子育て相談の実施を支援し、相談体制の充実を図ります。</p>	<p>福祉グループ</p>	<p>主任児童委員の子育て相談を実施(毎月1回開催)及び「こんにちは赤ちゃん事業(乳児家庭全戸訪問事業)」により、地域での子育て家庭の孤立化を防ぎ、子育て情報の提供を行うことにより、地域での子育て支援を進めた。</p>	<p>主任児童委員の子育て相談を実施(毎月1回開催)及び「こんにちは赤ちゃん事業(乳児家庭全戸訪問事業)」により、地域での子育て家庭の孤立化を防ぎ、子育て情報の提供を行うことにより、地域での子育て支援を進めた。</p>

(2) 関係機関と連携した相談体制の充実

<p>主要な施策(事業)</p>	<p>取組み方針</p>	<p>グループ</p>	<p>平成21年度評価</p>	<p>平成22年度評価</p>
<p>関係機関と連携した相談体制の充実</p>	<p>要保護児童対策地域協議会における代表者会議・実務者会議・研修会等の実施により、関係機関の連携を深めます。また、子育て支援センター、保育所、幼稚園、学校、こどもセンター(児童相談所)などの関係機関と町が連携し、各成長段階に応じた相談支援体制の充実を図ります。</p>	<p>福祉グループ 学校教育グループ</p>	<p>【福祉グループ】 要保護児童対策地域協議会において代表者会議・実務者会議等を実施し、特に実務者会議を2ヶ月に1回定期的に開催することで関係機関の連携を深めた。引き続き研修会などを実施し、さらに内容を充実させることにより、適切な対応に努める。</p> <p>【学校教育グループ】 関係機関との連携を密にし、お互いに情報をやりとりすることができている。また個別の支援について検討し、今後の指導についても話し合う機会を設けるようにした。</p>	<p>【福祉グループ】 要保護児童対策地域協議会において代表者会議・実務者会議等を実施し、平成22年度も実務者会議を2ヶ月に1回定期的に開催することで関係機関の連携を深めた。また、専任の子育て相談員を配置し、定期的に学校園巡回した。引き続き研修会などを実施し、さらに内容を充実させることにより、適切な対応に努める。</p> <p>【学校教育グループ】 播磨町地域自立支援協議会をはじめ福祉グループ、すこやか環境グループ、ひょうご発達障害者支援センター等関係機関と情報交換を行うことにより連携を密にした。また、発達障がい児の支援のための「かけはし」の活用もふくめ個別の支援について検討できた。</p>

〔 2 〕 必要かつ的確な情報提供の充実

子育てに対する負担や不安を軽減し、子育てをより楽しく充実したものとするため、保護者や子どもの状況に応じ、多様な子育て支援サービスの中から適切なサービスを的確に選ぶことに役立つ情報提供の充実を図ります。

主要な施策（事業）	取組み方針	グループ	平成 2 1 年度評価	平成 2 2 年度評価
情報ガイドブック等の作成	保健・福祉・医療・教育等の各分野で実施している子育て支援に関する事業や、支援などの情報を取りまとめた冊子を転入者や乳児健診受診者等に提供します。 また、内容を随時見直し、子育てに関する適正な情報の発信に努めます。	福祉グループ	新たに『子育て支援ガイドブック』を作成し、乳児家庭全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん事業）にて対象者へ配布。今後も引き続き配布等を行い、子育てに関する幅広い情報の提供を行う。	今年度も『子育て支援ガイドブック』を作成し、また離乳食のパンフレットなど乳児家庭全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん事業）にて対象者へ配布。今後も引き続き配布等を行い、子育てに関する幅広い情報の提供を行う。
情報通信技術（ICT）を活用した情報提供	いつでも、どこでも必要とする情報が入手可能なように、子育てにかかわる町ホームページを充実させ、積極的かつ効果的な情報提供に努めます。	福祉グループ	子育て支援情報を充実させ、メール等の問い合わせについても、よりスムーズに対応できるよう心掛けている。 今後も引き続き、子育て支援情報を充実させる。	子育て支援情報を充実させ、メール等の問い合わせについても、よりスムーズに対応できるよう心掛けている。 今後も引き続き、子育て支援情報を充実させる。
関係機関と連携した情報提供の充実	子育て支援センター、保育所、幼稚園、学校、こどもセンター（児童相談所）などの関係機関と町が連携し、子育てに関する法制度や子育てに役立つ最新の情報の収集・提供を図り、サービスや制度を十分活用してもらえるよう支援します。	福祉グループ 学校教育グループ 生涯学習グループ	【福祉グループ】 子育てに役立つ情報をまとめた「子育てすくすくカレンダー」を毎月発行し、町内の幼稚園、保育園、コミセンなどの公共施設に配布しているほか、乳児健診時にも配布した。 【学校教育グループ】 家庭教育推進委員会において、家庭教育啓発資料の作成をし、配布するとともにその活用方法についても、各機関で伝達した。 また家庭教育講演会を開催し、よりたくさんの保護者への啓発を行った。	【福祉グループ】 子育てに役立つ情報をまとめた「子育てすくすくカレンダー」を毎月発行し、町内の幼稚園、保育園、コミセンなどの公共施設に配布しているほか、乳児健診時にも配布した。 【学校教育グループ】 家庭教育推進委員会において、家庭教育啓発資料として学習のてびき「子どもたちのかがやく未来のために - 家庭でできること - 」を作成し配布した。 また家庭教育講演会を開催し、「食は人をよくする、世界を変える」をテーマで研修し、よりたくさんの保護者への啓発を行った。
「広報はりま」などを活用した子育て情報の提供	「広報はりま」では、紙面を活用し町内の小・中学校の日々の活動状況を「きゃんぱすだより」として情報発信します。町内の子育てサークルやボランティアなど子育て支援にかかわる情報も提供していきます。 また、情報が届きにくいことがないよう、地域に根ざした多様な媒体（回覧板など）も活用した情報提供に努めます。	福祉グループ すこやか環境グループ 学校教育グループ 生涯学習グループ	【福祉グループ・すこやか環境グループ】 広報はりまに、行事のカレンダーや毎月の保健行事コーナー等に子育て情報を掲載した。また、町ホームページにも子育て支援情報を積極的に掲載した。 【学校教育グループ】 「広報はりま」を利用して「教育のページ」や「よく学びよく育つ」というコラムで子育てに関する情報提供を行った。来年度も引き続き情報提供をしていく。	【福祉グループ・すこやか環境グループ】 広報はりまに、行事のカレンダーや毎月の保健行事コーナー等に子育て情報を掲載する「播磨町で子育てしよう」のコーナーを設け、分かりやすい広報を心がけた。また、町ホームページにも子育て支援情報を積極的に掲載した。 【学校教育グループ】 「広報はりま」を利用して「教育のページ」や「よく学びよく育つ」というコラムで子育てに関する情報提供を行った。来年度も引き続き情報提供をしていく。

3. 子育て家庭と地域を結ぶネットワークづくり

主要施策

- 〔1〕子育て家庭の存在を地域に周知させる取り組みの推進
- 〔2〕交流の推進とネットワークづくり

【主要施策】

- 〔1〕子育て家庭の存在を地域に周知させる取り組みの推進

地域における子育て支援のネットワークづくりをさらに拡大し、きめ細かく充実させていくことにより、多様な子育てニーズに対応し、社会全体で子育てを支援していく機運を醸成します。

主要な施策（事業）	取組み方針	グループ	平成21年度評価	平成22年度評価
少子化問題に関する意識啓発の推進	広報はりまや町ホームページ、また多くのイベント等の機会を通じて少子化問題に対する住民の理解を深め、子育てを夫婦や家庭だけの問題とせず、社会全体で支援する気運の醸成に努めます。	企画グループ 福祉グループ	<p>【企画グループ】</p> <p>町広報において、毎月子育てに関する取り組みや施策などの情報提供をするとともに、町のホームページにおいても、タイムリーでわかりやすい情報の提供に努めた。</p> <p>【福祉グループ】</p> <p>地域活動組織（母親クラブ）に、民生委員児童委員をはじめ地域住民の方に参画していただき、両支援センターで地域交流事業を行った。また、民生委員児童委員、主任児童委員による「こんにちは赤ちゃん事業」の実施により、子育てを社会全体で支える機運の醸成に努めた。</p> <p>平成21年度は小学生を対象とした講座を増やし、手作り講座等は世代間交流のよい機会となった。その講座がきっかけとなり小学生との日常的な関わりが生まれ、小学生による絵本の読み聞かせ及びセンター内の壁面製作の手伝い等のボランティア活動に発展してきている。今後も引き続きその機運の醸成に努める。</p>	<p>【企画グループ】</p> <p>広報はりまに、行事のカレンダーや毎月の保健行事コーナー等に子育て情報を掲載する「播磨町で子育てしよう」のコーナーを設け、分かりやすい広報を心がけ、町のホームページにおいても、タイムリーでわかりやすい情報の提供に努めた。</p> <p>【福祉グループ】</p> <p>地域活動組織（母親クラブ）に、民生委員児童委員をはじめ地域住民の方に参画していただき、両支援センターで地域交流事業を行った。また、民生委員児童委員、主任児童委員による「こんにちは赤ちゃん事業」の実施により、子育てを社会全体で支える機運の醸成に努めた。</p> <p>平成22年度も小学生を対象とした講座を行い、手作り講座等は世代間交流のよい機会となった。その講座がきっかけとなり小学生との日常的な関わりが生まれ、小学生による絵本の読み聞かせ及びセンター内の壁面製作の手伝い等のボランティア活動に発展してきている。今後も引き続きその機運の醸成に努める。</p>
民生委員児童委員（主任児童委員）活動への支援	地域の身近な相談窓口である民生委員児童委員（主任児童委員）について引き続き啓発活動を行い、身近な地域での子育て支援の中心的な役割を果たせるよう活動に対し支援します。	福祉グループ	<p>児童虐待問題の研修をはじめ、児童の福祉向上にかかる研修を支援するとともに、地域に根ざした子育て活動の担い手としてその活動を引き続き支援し、関係機関との連携を図る。</p>	<p>児童虐待問題の研修をはじめ、オレンジネットキャンペーンにより、児童の福祉向上にかかる研修を支援するとともに、地域に根ざした子育て活動の担い手としてその活動を引き続き支援し、関係機関との連携を図る。</p>

<p>こんにちは赤ちゃん事業</p>	<p>生後4か月までの乳児のいる世帯を全戸訪問し、相談・助言、情報提供を行うことで、乳児家庭の孤立防止や乳児の健全な育成環境の確保を図るとともに、子育て家庭と地域のつながりを深めます。</p>	<p>福祉グループ</p>	<p>地域での子育て家庭の孤立化を防ぎ、子育て情報の提供を行うことにより、地域での子育て支援を進める。</p>	<p>地域での子育て家庭の孤立化を防ぎ、子育て情報の提供を行うことにより、地域での子育て支援を進める。</p>
--------------------	--	---------------	---	---

〔2〕交流の推進とネットワークづくり

子育て支援センターや保育所、幼稚園等の関係機関との連携を強化するとともに、ボランティアをはじめとした地域で活動している人との協働による、子育て支援のネットワークづくりを推進します。

(1) 地域の子育て力の充実

<p>主要な施策(事業)</p>	<p>取組み方針</p>	<p>グループ</p>	<p>平成21年度評価</p>	<p>平成22年度評価</p>
<p>地域の子育て支援の充実</p>	<p>子育て経験者などと協働して、保育のノウハウを活用し、子育ての助言、子育てサークルの活動支援など地域における総合的な子育て支援の充実を図ります。 また、地域の子育てを支える団体の育成を推進します。</p>	<p>福祉グループ すこやか環境グループ</p>	<p>【福祉グループ】 引き続き、南北子育て支援センターにおいて、親子サロンでの日常的な交流や地域活動組織(母親クラブ)の活動の中に民生委員・児童委員をはじめ、地域住民の方に加わっていただきながら、多方面からの子育ての助言を行える体制を整えた。 今後も子育て支援センターを拠点として、いろんな世代の子育て経験者やファミリーサポートセンター事業での提供会員等の地域の活力を子育て支援に活用し、総合的な子育て支援の充実を図る。 【すこやか環境グループ】 「両親学級」を経産婦にも勧奨し、初産婦と交流の場を持つようにした。</p>	<p>【福祉グループ】 引き続き、南北子育て支援センターにおいて、親子サロンでの日常的な交流や地域活動組織(母親クラブ)の活動の中に民生委員・児童委員をはじめ、地域住民の方に加わっていただきながら、多方面からの子育ての助言を行える体制を整えた。 今後も子育て支援センターを拠点として、いろんな世代の子育て経験者やファミリーサポートセンター事業での提供会員等の地域の活力を子育て支援に活用し、総合的な子育て支援の充実を図る。 【すこやか環境グループ】 「両親学級」を経産婦にも勧奨し、初産婦と交流の場を持つようにした。また、平成22年度より開催場所を子育て北部支援センターに変更し、妊婦の時期から子育て支援センターを知ってもらうよう考慮した。</p>
<p>子育てサークルの育成とネットワークづくり</p>	<p>身近な地域で親同士が交流し、子育てについて相談し合える地域住民主体の自主的サークルを育成・支援し、地域ぐるみでの子育て活動を実践していく気運づくりに努めます。 また、サークル同士のネットワーク化を図り、情報の共有化や交流会などの実施を通じてサークル活動の活性化を図ります。</p>	<p>福祉グループ すこやか環境グループ</p>	<p>【福祉グループ】 子育て支援センターを拠点として、年齢毎に開催した講座受講者同士、また親子サロンで交流した中から生まれた子育て中の親同士によるサークル化及び地域活動組織(母親クラブ)の中で育ってきたグループの活動を支援した。平成21年度は町内の幼稚園をはじめ、他機関へのボランティア活動へと発展してきている。 また、子育て支援活動を行う個人や団体のネットワーク形成のため、講演会を実施した。 (登録サークル数：両支援センターあわせて59サークル) 【すこやか環境グループ】 「両親学級」時に参加者交流の時間を設けている。また乳児健康診査の待ち時間に母親同士の交流ができるよう心がけている。今後も継続していく。</p>	<p>【福祉グループ】 子育て支援センターを拠点として、年齢毎に開催した講座受講者同士、また親子サロンで交流した中から生まれた子育て中の親同士によるサークル化及び地域活動組織(母親クラブ)の中で育ってきたグループの活動を支援した。22年度も引き続き町内の幼稚園をはじめ、他機関へのボランティア活動を実施した。 また、子育て支援活動を行う個人や団体のネットワーク形成のため、講演会を実施した。 (登録サークル数：両支援センターあわせて59サークル) 【すこやか環境グループ】 「両親学級」時に参加者交流の時間を設けた。また乳児健診の待ち時間に母親同士の交流ができるよう心がけた。</p>

(2) 子育て支援活動の推進

主要な施策（事業）	取組み方針	グループ	平成 2 1 年度評価	平成 2 2 年度評価
ファミリー・サポート・センター事業の推進	<p>北部子育て支援センターを拠点に、「子育てを応援したい人」と「子育てを応援してほしい人」を会員として相互援助活動の推進を図ります。</p> <p>また、事業の普及啓発・研修活動を推進し、登録会員数の増加や育児支援の利用促進を図ります。</p>	福祉グループ	<p>北部子育て支援センターを拠点に活動。平成 2 2 年 3 月末現在、提供会員 6 1 人、依頼会員 4 8 7 人、両方会員 7 人、活動件数はのべ 1 , 0 2 7 件（前年比 4 8 件減、複数預かり含む）</p> <p>減の理由としては、新型インフルエンザによる休校、学級閉鎖によるキャンセルがあげられる。）</p> <p>また、新規提供会員養成講座を実施し 9 名が受講した。</p>	<p>北部子育て支援センターを拠点に活動。平成 2 3 年 3 月末現在、提供会員 6 3 人、依頼会員 5 6 0 人、両方会員 7 人、活動件数はのべ 8 5 1 件（前年比 1 7 6 件減、複数預かり含む）</p> <p>減の理由としては、継続利用の子どもが対象年齢からはずれたり、年齢が上がるにつれ依頼回数が減ってきていることがあげられる。）</p> <p>また、新規提供会員養成講座および既存会員交流講座を実施し述べ 2 3 名が受講し 2 名の新規登録があった。</p>
子育てボランティアの確保・養成	<p>子育てにかかわるボランティアや活動の中心の役割を果たすリーダーの確保・育成を図ります。親子サロンでの交流や母親クラブの活動等により子育てへの助言について、特に子育て経験のある方や高齢者などの知識・経験等の積極的な活用を図ります。</p> <p>また、子育て支援センター事業など地域での子育て支援活動や児童関連施設での活動を通じて、子育てボランティアが活躍できる場の充実を図ります。</p>	福祉グループ	<p>南北子育て支援センターにおいて、親子サロンでの交流や母親クラブの活動等により子育てへの助言を行える体制を整えた。</p> <p>今後も南北子育て支援センターを拠点として、子育て経験者やファミリーサポートセンター事業提供会員などの地域の活力を子育て支援に活用し、総合的な子育て支援の充実を図る。</p>	<p>南北子育て支援センターにおいて、親子サロンでの交流や母親クラブの活動等により子育てへの助言を行える体制を整えた。</p> <p>今後も南北子育て支援センターを拠点として、子育て経験者やファミリーサポートセンター事業提供会員などの地域の活力を子育て支援に活用し、総合的な子育て支援の充実を図る。</p>

4. 経済的負担の軽減

主要施策

- 〔1〕子育て用品のリサイクル支援
- 〔2〕子ども手当等制度の周知
- 〔3〕保育料・教育費の負担の軽減

【主要施策】

〔1〕子育て用品のリサイクル支援

子育て中の家庭に対する経済的支援として、リサイクル支援の充実と普及・啓発及び充実に努めます。

主要な施策（事業）	取組み方針	グループ	平成21年度評価	平成22年度評価
子育て用品のリサイクル支援	子育てに対する経済的負担の軽減に加え、環境問題への意識向上を図るため、加古郡リサイクルプラザを活用した子育て用品のリサイクル（無料貸し出し）を促進します。また、最近、活発に行われている「フリーマーケット」の活動を支援します。	すこやか環境グループ		加古郡リサイクルプラザを活用した子育て用品のリサイクル（無料貸し出し）について、案内を行った。また、フリーマーケットについては、広報とチラシで周知を図り、平成22年度は1回実施した。

〔2〕子ども手当等制度の周知

子育て中の家庭に対する経済的支援として、手当制度の周知及び充実に努めます。

主要な施策（事業）	取組み方針	グループ	平成21年度評価	平成22年度評価
子ども手当等の支給	子育て家庭における生活の安定と児童の健全な育成を図るため、児童を養育する人に手当を支給するとともに、制度の広報に努めます。	福祉グループ	現況届提出の時期等に子ども手当等のパンフレットを配布するとともに、町広報やホームページを通じて制度の周知を図った。今後も分かりやすい広報に努める。	町広報やホームページを通じて制度の周知を図った。また、受給対象となりそうな方へ、申請用紙とパンフレットを配布した。今後も分かりやすい広報に努める。

〔3〕保育料・教育費の負担の軽減

乳幼児及び児童・生徒の就園・就学を支援し、保護者の経済的負担の軽減を図るため、各種制度の普及・啓発に引き続き努めます。

主要な施策（事業）	取組み方針	グループ	平成21年度評価	平成22年度評価
保育所・幼稚園の保育料の減免	所得の急激な減少などで、保育料の納付が経済的に大きな負担となる世帯を対象として行っている保育料等の減免について個別に制度を案内するなど、広報に努めます。	福祉グループ 教育総務グループ		【福祉グループ】 所得の急激な減少などで、保育料の納付が経済的に大きな負担となる世帯を対象として行っている保育料等の減免

				<p>について個別に制度を案内するなど、広報に努めた。</p> <p>【教育総務グループ】</p> <p>減免の制度について広報に掲載し、また保護者全員に通知した。今後も分かりやすい広報に努める。</p>
小・中学校の就学援助	<p>経済的な理由で、公立小・中学校の就学が困難な世帯を対象に行っている、学用品費・通学用品費・学校給食費など学習に必要な費用の一部援助について広報に努めます。</p>	教育総務グループ	<p>町広報のみならず、ホームページでもお知らせし、全保護者に申請案内書を配布した。</p>	<p>町広報のみならず、ホームページでもお知らせし、全保護者に案内を配布した。</p>

第2節 健やかな心身を育む子育て環境づくり

1. 未来につながる健康づくりの推進

主要施策

- 〔1〕安心・安全な妊娠・出産のための支援
- 〔2〕親子の健康保持・増進のための支援
- 〔3〕思春期保健対策の充実
- 〔4〕食育の推進
- 〔5〕歯科保健対策の充実
- 〔6〕小児医療体制の充実

【主要施策】

〔1〕安心・安全な妊娠・出産のための支援

安心で安全な妊娠・出産に向けて、各種健診・検診や訪問活動等を実施するとともに、正しい知識の普及や相談支援を行います。

主要な施策（事業）	取組み方針	グループ	平成21年度評価	平成22年度評価
母子健康手帳の交付	母子の健康管理と健康保持のため、妊娠から出産、子育てを記録する手帳の交付をします。交付時には妊婦に対してリーフレットを配布するなど、妊娠中や子育ての不安の軽減を図るための情報の提供を行います。	すこやか環境グループ	平成21年度母子健康手帳交付数 285 （参考）妊娠11週までに妊娠届けを出す人の割合 平成21年度 77.5% 引き続き、妊娠11週までに妊娠届けを出す人の割合増加をめざす。 母子健康手帳は保健師が交付し、母子健康手帳の説明、妊婦健康診査費助成や妊婦歯科検診の案内、乳幼児健康診査や予防接種の説明、母の質問に対してのアドバイス等を実施している（15分程度）。 またリーフレット類を配布し、妊娠中や子育てについての情報提供を行っている。	平成22年度母子健康手帳交付数 294 （参考）妊娠11週までに妊娠届けを出す人の割合 平成22年度 83.7% 引き続き、妊娠11週までに妊娠届けを出す人の割合増加をめざす。 母子健康手帳は保健師が交付し、母子健康手帳の説明、各種サービスの案内、質問に対してのアドバイスを実施した。また、リーフレット類を配布し、妊娠中や子育てについての情報提供を行い、不安の軽減に努めた。
妊婦健康診査費助成	妊娠中の母と子の健康保持増進のため、妊婦健康診査費の一部を助成することで妊娠中の異常の早期発見、妊婦の健康の保持・増進を図ります。	すこやか環境グループ	妊娠中の健康保持増進のため、妊婦健康診査費助成は平成21年度より、1回4,000円を上限に12回、11,000円を上限に2回に変更し、実施している。 （参考）平成21年度 妊婦健康診査費助成申請者数 337人	妊娠中の健康保持増進のため、妊婦健康診査費のうち14回に対し助成した。（1回4,000円を上限に12回、11,000円を上限に2回） （参考）平成22年度 妊婦健康診査費助成申請者数 339人

<p>妊産婦訪問指導</p>	<p>早期から支援の必要な妊婦・産婦の把握に努め、妊娠・出産・子育てに関して個々に応じた保健指導や相談を家庭訪問により行い、安心して出産、子育てができるよう支援します。特に、出生届出時に新生児訪問を勧奨し、産後1か月未満のもっとも精神的に不安定になりやすい時期に訪問できるよう対象者に働きかけます。</p>	<p>すこやか環境グループ</p>	<p>妊婦訪問は、若年等ハイリスク者・訪問希望者に実施した。 (参考) 平成21年度 妊婦訪問指導件数 17件 産婦・新生児訪問は、第1子・若年等ハイリスク者・第2子以降の希望者に実施した。 (参考) 平成21年度産婦・新生児訪問指導件数 144件 母子健康手帳交付時や出生届出時に、妊婦訪問及び新生児訪問の勧奨に努め、前年度より訪問件数が増加した。よって保健指導・保健相談の機会を多くもつことができた。 今後も継続していく。</p>	<p>妊婦訪問は、若年妊婦・ハイリスク者・訪問希望者に実施した。 (参考)平成22年度 妊婦訪問指導件数 14件 産婦・新生児訪問は、第1子・若年産婦・ハイリスク者・第2子以降の訪問希望者に実施した。 (参考)平成22年度 産婦・新生児訪問指導件数 181件 母子健康手帳交付時や出生届出時に、妊婦訪問及び新生児訪問の勧奨に努め、前年度より訪問件数が増加した。よって保健指導・保健相談の機会を多くもつことができた。</p>
<p>学習機会の充実</p>	<p>妊娠や出産、子育てに関する正しい知識の普及を図り、安心して出産・子育てができるよう支援します。また、子育ての仲間づくりの場として活用し、身体面だけでなく、“こころの支援”を目指した取り組みを推進します。</p>	<p>すこやか環境グループ</p>	<p>「両親学級」を3回1クールとして年3回(合計9回)実施した。医師・助産師・保健師・栄養士・歯科衛生士による講義を行い、妊娠・出産・子育てに関する正しい知識の普及を図った。 また参加者交流の時間を毎回設け、仲間作りの場をもった。 (参考) 平成21年度「両親学級」参加者数 延160人 平成22年度は、地域での子育て支援に重点を置くため、会場を「北部子育て支援センター」に移すとともに、父親も参加しやすい土曜日に開催する予定である。</p>	<p>「両親学級」を年4回実施し、妊娠・出産・子育てに関する正しい知識の普及を図った。また、参加者交流の時間を設け、仲間作りの場をもった。 平成22年度は、地域での子育て支援に重点を置くため、会場を「北部子育て支援センター」に移すとともに、父親も参加しやすい土曜日に開催し好評を得た。 (参考)平成22年度「両親学級」参加者数 延101人 うち 父親35人</p>
<p>不妊治療への支援</p>	<p>体外受精及び顕微受精(特定不妊治療)に対する不妊治療費助成制度、不妊専門相談などの県の費用助成制度の広報に努め、不妊専門相談などの関係機関と連携を図ります。また、町として治療費の助成を行います。</p>	<p>すこやか環境グループ</p>	<p>平成21年度より、兵庫県特定不妊治療費助成事業に上乗せする形で、「播磨町特定不妊治療費助成事業」を実施した。助成額は1回あたり100,000円を限度とし、1年度2回まで、通産5か年度助成する。上記を「広報はりま」で情報提供した。また兵庫県の助成を受けた者には、県より町の助成事業を勧奨してもらった。引き続き実施する。 (参考)平成21年度 播磨町特定不妊治療費助成者数 延7人</p>	<p>兵庫県特定不妊治療費助成事業に上乗せする形で、「播磨町特定不妊治療費助成事業」を実施した。助成額は1回あたり100,000円を限度とし、1年度2回まで、通産5か年度助成する。特定不妊治療費助成事業が周知され、前年度より申請者が増加した。 (参考)平成22年度 播磨町特定不妊治療費助成者数 延17人</p>

〔 2 〕 親子の健康保持・増進のための支援

保健・医療・福祉の各分野との連携のもと、親子の健康保持・増進への取り組み、相談できる機会や場の充実、子育て不安の軽減を図ります。

主要な施策（事業）	取組み方針	グループ	平成21年度評価	平成22年度評価
乳幼児訪問指導	家庭訪問により子育てに関する相談や母親の精神的な不安の軽減、保健指導などを行い、子どもの健やかな成長を促します。	すこやか環境グループ	乳幼児健康診査後のフォローとして訪問をしている。 保護者の話を聞くことで、不安を軽減し、必要に応じてアドバイスや各種機関を紹介し、子どもの健やかな成長を促すことができた。	乳幼児健康診査後のフォロー等、必要に応じて訪問を実施し、子どもの健やかな成長を促すよう努めた。
子育て相談・健康教育	子育てに関する情報交換や相談及び発達確認を行い、不安の軽減に努めます。 また、参加者同士の交流やグループづくりを図り、子育てに孤立感を感じないよう支援します。	すこやか環境グループ	離乳食講習会、1歳児育児教室、2歳児育児教室を各年4回実施した。その中で、子育てに関する情報提供・相談及び発達確認を実施し、子育ての不安軽減に努めた。また、ことばの教室の個別相談を実施し、ことばや心身の発達の確認を行い、子どもだけでなく、親の支援も行っている。 (参考)平成21年度 離乳食講習会参加者数 61人 1歳児育児教室参加者数 94人 2歳児育児教室参加者数 71人 ことばの教室個別相談者数 10人 平成22年度は月1～2回「子育て支援センター」に保健師・栄養士が出向き、子育て相談・健康教育をする予定である。 また、平成22年度より心理士・作業療法士・保健師による「母子相談事業」を月2回実施し、子どもの発達面のフォロー及び母親の子育て支援を充実させる予定である。	「離乳食講習会」、「2歳児育児教室」を各年4回、「ことばの教室」の個別相談を適宜実施した。その中で、子育てに関する情報提供・相談及び発達確認を実施し、子育ての不安軽減に努めた。 平成22年度より心理士・作業療法士・保健師による「母子相談事業」を月2回実施し、子どもの発達面のフォロー及び母親の子育て支援を充実させた。また、月1回「子育て支援センター」に保健師・栄養士が出向き、子育て相談を実施した。 (参考)平成22年度 「離乳食講習会」参加者数 延80人 「2歳児育児教室」参加者数 延58人 「ことばの教室」個別相談者数 延19人 母子相談者数 延40人
乳幼児健康診査	4か月児・10か月児・1歳6か月児・3歳児を対象とした健康診査の内容の充実に努め、発達確認や健康保持・増進、疾病・虐待の早期発見、親子同士の交流など、子育て支援の役割も果たせるよう引き続き取り組みます。	すこやか環境グループ	(参考)平成21年度受診率 4か月児健診 - 96.2% 10か月児健診 - 95.3% 1歳6か月児健診 - 93.7% 3歳児健診 - 96.7% 今後も各健診の受診率の向上をめざすとともに、未受診者の受診勧奨に努め、受診していない者の訪問を徹底する。	(参考)平成22年度受診率 乳児健診 - 97.5% 10か月児健診 - 91.4% 1歳6か月児健診 - 90.8% 3歳児健診 - 91.7% 乳幼児健康診査の受診勧奨を行うとともに、未受診者への訪問を徹底した。今後も受診率の向上をめざす。
乳幼児発達相談	発達や養育上の支援が必要な親子に対して、よりよい成長発達を促すため、専門家による適切な相談体制の充実を図ります。	すこやか環境グループ	加古川市、稲美町、播磨町の1市2町合同で乳幼児発達相談、ことばの相談を実施した。 (参考)平成21年度 乳幼児発達相談者数 12人 今後も引き続き実施する。	加古川市、稲美町、播磨町の1市2町合同で乳幼児発達相談、ことばの相談を実施した。 (参考)平成22年度 乳幼児発達相談者数 9人

予防接種事業	感染により病状が著しく重くなるおそれのある疾病の発生予防及び地域へのまん延防止のため、予防接種の正しい知識の普及や啓発に努めます。また、関係グループや関係機関との連携を図り、未接種者への勧奨を行い、接種率の向上に努めます。	すこやか環境グループ	<p>予防接種未接種者に対して、個別勧奨や乳幼児健診等の機会を捉え、受診勧奨を行った。</p> <p>今後も福祉グループや教育委員会との連携を図り、未接種者への勧奨を行う。</p>	<p>予防接種未接種者に対して、個別勧奨や乳幼児健診等の機会を捉え、受診勧奨を行った。</p> <p>今後も福祉グループや教育委員会との連携を図り、未接種者への勧奨を行う。</p>
--------	---	------------	--	--

〔 3 〕 思春期保健対策の充実

喫煙、薬物の有害性についての知識や性に関する正確な知識の普及・啓発を図るとともに、子育て・保育体験等を通じて母性・父性を育むための学習の推進に努めます。

主要な施策（事業）	取組み方針	グループ	平成 2 1 年度評価	平成 2 2 年度評価
思春期健康教育の推進	次代の親となることが期待される子どもが、将来、住み慣れた地域で健やかに自分の子どもを産み育てることができるよう、地域の子育て中の母親と子どもとふれあう機会を設けるなど、母性・父性に関する正しい知識の普及を促す健康教育や保健指導を行います。	すこやか環境グループ 学校教育グループ	<p>【すこやか環境グループ】</p> <p>町内 2 校の中学 3 年生を対象に、思春期体験学習をクラス単位で実施した。</p> <p>（参考）平成 2 1 年度 播磨中学校：1 8 1 人 播磨南中学校：1 6 4 人</p> <p>地域の子育て中の母親と子どもに授業に参加してもらうことで、父性母性の涵養を図り、自分自身を振り返るきっかけづくりの場となった。</p> <p>また、子育て支援センターとの連携により、地域で子育てをしている母親が中学生たちに子育ての思いを伝える場にもなった。</p> <p>平成 2 2 年度は、授業に参加してくれる母親・赤ちゃんの数を増やすとともに、父親の参加も募集し、より生徒に命の大切さ・赤ちゃんの温もり等を感じてもらえるよう努める。</p> <p>【学校教育グループ】</p> <p>保健体育・家庭科や総合的な学習の時間を活用して赤ちゃんとその母親を外部指導者として招き、出産、子育てに関する学習を深めた。</p>	<p>【すこやか環境グループ】</p> <p>町内 2 校の中学 3 年生を対象に、思春期体験学習をクラス単位で実施した。</p> <p>平成 2 2 年度は、子育て支援センターの協力を得て、授業に参加する母親・乳児の数を増やすとともに、父親にも参加してもらい、中学生に命の大切さ・赤ちゃんの温もり等を感じてもらえるよう努めた。</p> <p>（参考）平成 2 2 年度 思春期体験学習参加者数 播磨中学校：1 8 0 人 播磨南中学校：1 3 3 人</p> <p>【学校教育グループ】</p> <p>保健体育・家庭科や総合的な学習の時間を活用して赤ちゃんとその母親を外部指導者として招き、出産、子育てに関する学習を深めた。来年度は、卒業生の母子を指導者として招きたい。</p>
学校における健康診査	児童・生徒に対する健康診査や各種検診を行い、生活習慣の改善を図ります。	教育総務グループ	<p>【教育総務グループ】</p> <p>学校保健安全法の規定に基づき、健康診断を行った。</p>	<p>【教育総務グループ】</p> <p>学校保健安全法の規定に基づき、健康診断を行った。</p>
性に関する情報についての学習機会の充実	性に関する情報について、学校等関係機関との連携により、学習機会の充実を図ります。	学校教育グループ	<p>【学校教育グループ】</p> <p>保健体育や学級活動を通して、カリキュラムに沿って指導した。</p>	<p>【学校教育グループ】</p> <p>保健体育や学級活動を通して、カリキュラムに沿って指導した。</p>

<p>飲酒・喫煙・薬物乱用 に対する教育の充実</p>	<p>関係機関の連携により、喫煙・飲酒や薬物乱用など心身に害を及ぼす行為の防止に関する教育の充実を図ります。また、健康フェアなどの機会を捉えて啓発や情報提供を行います。</p>	<p>すこやか環境グループ 学校教育グループ</p>	<p>【学校教育グループ】 保健体育や学級活動を通して、カリキュラムに沿って指導した。</p>	<p>【すこやか環境グループ】 健康フェアにて、キャラバンカーによる薬物乱用に関する啓発を行った。来年度も実施する予定である。 【学校教育グループ】 保健体育や学級活動、総合的な学習の時間を通して、カリキュラムに沿って指導した。</p>
<p>相談支援体制の充実</p>	<p>小・中学校にスクールカウンセラーやスクールアシスタントを配置し、ストレスなどさまざまな要因で喫煙・飲酒・薬物乱用などの危険行動に陥りやすい子どもに寄り添い、問題解決に取り組むための相談支援体制の充実を図ります。</p>	<p>すこやか環境グループ 学校教育グループ</p>	<p>【すこやか環境グループ】 健康フェアにて、キャラバンカーによる薬物乱用に関する啓発を行った。来年度も実施する予定である。 【学校教育グループ】 県費のスクールカウンセラーを全ての小中学校に配置した。さらに播磨町全小中学校にスクールアシスタントを配置して相談体制の充実を図った。今年度は、中学校にもスクールアシスタントを配置した。</p>	<p>【すこやか環境グループ】 健康フェアにて、キャラバンカーによる薬物乱用に関する啓発を行った。来年度も実施する予定である。 【学校教育グループ】 県費のスクールカウンセラーを全ての小中学校に配置した。さらに播磨町全小中学校にスクールアシスタントを配置して相談体制の充実を図った。今年度も、中学校にスクールアシスタントを配置した。</p>

〔４〕食育の推進

子どもが心身の成長の礎となる食物の内容や食事のあり方について、きちんと学び、規則正しい生活習慣を習得させるため、成長の各段階にあわせて食育についての啓発に努め、調理する、楽しく食べるといった食生活全般にわたる知識の普及・意識向上、学習機会の提供などを行います。

主要な施策（事業）	取組み方針	グループ	平成21年度評価	平成22年度評価
乳幼児期からの食生活の基礎づくりへの支援	乳幼児期からの食に関する正しい知識の普及と相談、親の仲間づくりと交流を図ります。	すこやか環境グループ 福祉グループ 学校教育グループ	<p>【すこやか環境グループ】</p> <p>妊娠期：「両親学級」、乳児期：「離乳食講習会」、幼児期「1歳児育児教室」「2歳児育児教室」にて、その時期に応じた栄養指導を栄養士・いずみ会（食生活推進委員）が実施した。</p> <p>また乳幼児健診にて個別に栄養相談を実施している。今後も引き続き実施する。</p> <p>平成22年度は月1～2回「子育て支援センター」に栄養士が出向き、子育て相談・健康教育を実施する予定をしている。</p> <p>【福祉グループ】</p> <p>子育て支援センターにおいて2歳児を対象に開催した連続講座の中で、毎日食事メニューを記入する項目を設け、家庭での食事内容に目を向けるきっかけ作りを行った。また、そこからの気づきを踏まえ、子どもの年齢に応じた食事だけでなく、家族全体の食事として捉え、無理せず少しでもよい内容となるよう「食育」に関する講座を、管理栄養士を講師に実施した。</p> <p>【学校教育グループ】</p> <p>各学校に食育担当を置き、各学校園で食育全体計画を作成し、子どもたちへの食育を行っている。</p> <p>また、家庭教育推進委員会では食育に関する内容を盛り込み、親子で食について考えられる内容で資料No2を作成した。</p>	<p>【すこやか環境グループ】</p> <p>妊娠期：「両親学級」、乳児期：「離乳食講習会」、幼児期「2歳児育児教室」にて、その時期に応じた栄養指導を栄養士・いずみ会（食生活推進委員）が実施した。</p> <p>乳幼児健診では、栄養士が個別に栄養相談を引き続き実施している。</p> <p>平成22年度から月1～2回「子育て支援センター」に栄養士・保健師が出向き、子育て相談・健康教育を実施したが、今後も引き続き実施する。</p> <p>【福祉グループ】</p> <p>子育て支援センターにおいて、0歳児、1歳児、2歳児それぞれの年齢に応じた講座の中で、離乳食からはじまる子どもの食事について関心を持ってもらうために毎日の食事メニューを記入する機会を設け、家庭での食事内容に目を向けるきっかけ作りを行った。各年齢の講座の中で、食事内容の改善方法について積極的に栄養士と話す機会を設けた。</p> <p>また、そこからの気づきを踏まえ、子どもの年齢に応じた食事だけでなく、家族全体の食事として捉え、無理せず少しでもよい内容となるよう「食育」に関する講座を、管理栄養士を講師に実施した。</p> <p>【学校教育グループ】</p> <p>各学校に食育担当を置き、各学校園で食育全体計画を作成し、子どもたちへの食育を行っている。</p> <p>また、家庭教育推進委員会主催の講演会では食育をテーマに講演会を実施した。</p>
住民による食育活動への支援	「食」を通じた健康づくりを推進するための活動を支援します。	すこやか環境グループ 福祉グループ 学校教育グループ 生涯学習グループ	<p>【すこやか環境グループ】</p> <p>「2歳児育児教室」、「母と子の料理教室」にて食生活推進員による食育活動を推進した。</p> <p>また、はりま健康プランの「ふれあい自然農園」は、住民が野菜づくりを通して、野菜に関心を持つ機会となっている。今後も野菜づくりを通して食育活動を推進するよう支援する。</p>	<p>【すこやか環境グループ】</p> <p>「2歳児育児教室」では栄養士と食生活推進員によって、「母と子の料理教室」では食生活推進員によって食育活動を推進した。</p> <p>また、はりま健康プランの「ふれあい自然農園」は、住民が野菜づくりを通して、野菜に関心を持つ機会となっている。平成22年度から毎月栄養・野菜に関するリ</p>

			<p>【福祉グループ】 子育て支援センターを拠点とし、子どもの年齢に応じた「食育」に関する講座を、管理栄養士を講師に実施した。</p> <p>また保育園においても児童の昼食のメニューを陳列し、保護者に児童の「食」に関する話題を提供するよう工夫を行い、さらに給食試食会を随時実施し、管理栄養士等から食育の大切さを学ぶ講習会を実施した。</p> <p>【学校教育グループ】 昨年度と同様、夏休みに料理教室を開催した。蓮池小学校区では昨年度に引き続き「食育トライやるひろば」を実施した。</p> <p>また、秋に野添コミセンを中心に食育広場を開催した。</p>	<p>ーフレットを参加者に配布した。今後も野菜作りを通して食育活動を推進するよう支援する。</p> <p>【福祉グループ】 子育て支援センターを拠点とし、子どもの年齢に応じた講座の中で、子どもの食事に関心を持つことから家庭での食事内容に目を向け、改善方法を栄養士と話す中で学んだ。また、「食育」に関する講座を、管理栄養士を講師に実施した。</p> <p>【学校教育グループ】 昨年度と同様、夏休みに料理教室を開催した。蓮池小学校区では昨年度に引き続き「蓮池っ子食育サポート隊」を実施した。</p> <p>また、秋に野添コミセンを中心に「食育広場」を開催した。</p>
学校・園における食育の推進	正しい食習慣が身に付くよう食生活の健康に及ぼす影響等、「食」に関する学習を、学校・園において推進します。	学校教育グループ すこやか環境グループ	各学校園で食育全体計画を作成し、子どもたちの発達段階に応じた学習活動を取り入れ、自分たちの「食」に対して考えられるよう指導した。	<p>【学校教育グループ】 各学校園で食育全体計画を作成し、子どもたちの発達段階に応じた学習活動を取り入れ、自分たちの「食」に対して考えられるよう指導した。中学校においては、給食の開始を踏まえて食育全体計画を見直した。</p> <p>【すこやか環境グループ】 小学校（2校）、幼稚園（3）において、保護者対象に講話や調理実習を実施し、正しい食習慣が身につくための食育活動を推進した。</p>
食を通じたコミュニケーションの推進	家族揃って食事をとることの楽しさ、大切さについてPRし、食事に対するより豊かな知識と食習慣の定着を促します。子どもだけでなく高齢者等も交え、調理や食事を通じたコミュニケーションづくりを推進し、交流を図ります。	すこやか環境グループ	はりま健康プランの「ふれあい自然農園」にて、野菜作りや収穫の喜びを共に体験することにより、食と健康を通じた異世代交流を図る機会となった。今後も引き続き実施する。	はりま健康プランの「ふれあい自然農園」にて、野菜作りや収穫の喜びを共に体験することにより、食と健康を通じた異世代交流を図る機会となった。今後も引き続き実施する。

〔 5 〕 歯科保健対策の充実

歯の健康は、心身の健康保持・増進にとっても重要なかわりがあります。歯は胎児の時からつくられるもので、歯の健康について考え、生涯を通じて学べる機会の充実を図ります。

主要な施策（事業）	取組み方針	グループ	平成 2 1 年度評価	平成 2 2 年度評価
歯科保健事業の推進	妊娠中からライフサイクルに応じた予防教室や相談、歯科検診等の充実を図ります。そして、歯科保健に対する意識を高め、ブラッシング指導やフッ化物歯面塗布等の保健指導を実施するなど、よりよい生活習慣の定着を支援します。	すこやか環境グループ	<p>健康福祉フェアでは、幅広い年齢の住民を対象に啓発するとともに、両親学級や 1 歳児育児教室、2 歳児育児教室では、子どもだけでなく、親自身の歯に対する意識の向上に努めた。</p> <p>1 歳児育児教室では、「かむこと」を中心に、2 歳児育児教室では、「むし歯予防」に視点を置き、かむことができる子が増えるとともに、健診等でのう歯率の減少を目指している。</p> <p>平成 2 1 年度より、妊婦の口腔衛生状態を健全にし、妊婦や生まれてくる子どもの予防意識の向上を目指すために、妊婦歯科検診を実施した。</p> <p>加古川歯科保健センターでは、ブラッシング指導やフッ化物歯面塗付等の保健指導を実施している。</p> <p>事業については、今後も引き続き実施する。</p>	<p>健康福祉フェアでは、幅広い年齢の住民を対象に歯科検診、歯科相談等を実施した。</p> <p>「両親学級」や「2 歳児育児教室」では、ブラッシング指導等の健康教育を、1 歳 6 か月児・3 歳児健診時には必要な者に歯科相談を積極的に実施した。</p> <p>平成 2 1 年度より妊婦歯科検診を実施し、妊婦の口腔衛生状態を健全にし、妊婦や生まれてくる子どもの予防意識の向上を目指している。</p> <p>（参考）平成 2 2 年度 妊婦歯科検診受診者数 延 1 1 2 人</p> <p>また、加古川歯科保健センターで実施している、ブラッシング指導やフッ化物歯面塗付等の保健指導を広報にて啓発した。</p>

〔 6 〕 小児医療体制の充実

親子がいつでも安心して適切な医療サービスが受けられるよう、町内の医療機関において小児期全般にわたる医療水準を充実するとともに、救急医療に関する情報提供や啓発を行います。

主要な施策（事業）	取組み方針	グループ	平成 2 1 年度評価	平成 2 2 年度評価
乳幼児事故防止に関する啓発	子どもの不慮の事故死亡が起きないように、事故防止に関する啓発を行い、意識の向上に努めます。	すこやか環境グループ	母子健康手帳交付時に冊子、乳児健診にてパンフレットを配布、個別相談時に事故予防について説明し、啓発に努めた。	母子健康手帳交付時、乳児健診時に事故防止についてのパンフレットを配布した。また、乳児健診の個別相談時に事故予防について説明をし、啓発に努めた。
救急医療体制の充実	日曜日・祝日、年末年始、夜間における救急診療体制及び小児二次救急医療体制の情報提供や充実を図ります。また、子どもの救急時に保護者が適切に対応できるよう情報提供に努めます。	すこやか環境グループ	<p>夜間急病センター・歯科保健センター・兵庫県小児救急医療電話相談、年末年始の救急医療機関については、町広報やホームページに掲載し、情報提供した。また、日祝の休日救急医については、ホームページに掲載した。</p> <p>平成 2 0 年 4 月より、夜間急病センターの小児科診療時間が 2 1 時から 2 4 時までに変更になったため、各健診にて、こどもの体調を判断するための広報を行った。</p>	<p>夜間急病センター・歯科保健センター・兵庫県小児救急医療電話相談、年末年始の救急医療機関については、町広報やホームページに掲載し、情報提供した。また、日祝の休日救急医については、ホームページに掲載した。</p> <p>乳幼児健診において「子どもの急病対応ガイド」を配布し、子どもの救急時に保護者が適切な対応ができるよう啓発に努めた。</p>

<p>乳幼児医療費助成事業</p>	<p>乳幼児医療費の助成を行うことにより、保護者の経済的負担の軽減を図り、安心して子育てできる環境づくりを進めるとともに、制度の普及・啓発と内容の充実に努めます。</p>	<p>保険年金グループ</p>	<p>県の制度に準拠し、前年度に引き続き、町単独分として小学校 3 学年終了までの児童の一部負担金を無料とし、保護者の経済負担の軽減を図った。</p>	<p>県の制度に準拠し、前年度に引き続き、町単独分として小学校 3 学年終了までの児童の一部負担金を無料とし、保護者の経済負担の軽減を図った。</p> <p>また、こどもの入院医療費の一部を助成する「子ども医療費助成事業」がはじまり、入院費を助成することにより、こどもの福祉の増進を図った。</p>
-------------------	---	-----------------	---	---

2. 援護の必要な子どもや家庭への支援

主要施策

- 〔1〕ひとり親家庭等への支援の充実
- 〔2〕障がいのある子ども等に対する保育・教育の充実
- 〔3〕不登校・問題行動等への対応

【主要施策】

〔1〕ひとり親家庭等への支援の充実

ひとり親が仕事・家事・育児などの負担の軽減、経済的に自立するための就労支援など、さまざまな問題に対応できるよう、個々の家庭の状況に応じた取り組みを進めます。

主要な施策（事業）	取組み方針	グループ	平成21年度評価	平成22年度評価
児童扶養手当支給	両親の離婚等により、保護者等と生計を同じくしていない児童を監護・養育している場合に、その養育者に手当を支給します。また、制度の広報に努めるとともに、国・県に対し制度の充実を働きかけに努めます。	福祉グループ	離婚等の相談を含め、母子家庭相談等で各種制度の説明を行った。今後も引き続き、母子家庭等の福祉向上に努める。	離婚等の相談を含め、母子家庭相談等で各種制度の説明を行った。また、父子家庭も対象となったことにより啓発に努めた。今後も引き続き、ひとり親家庭等の福祉向上に努める。
母子家庭等医療費助成事業	ひとり親家庭の保護者等の経済的負担の軽減を図るため、母子家庭等医療費の助成制度の広報と充実を努めます。	保険年金グループ	県の制度等に準拠し、さらに対象者を県制度の18歳までを、町単独分として20歳未満の児童を監護する母又は父等及びその児童に拡大し、母子家庭等の経済負担の軽減を図った。	県の制度等に準拠し、さらに対象者を県制度の18歳までを、町単独分として20歳未満の児童を監護する母又は父等及びその児童に拡大し、母子家庭等の経済負担の軽減を図った。
相談支援体制の充実	母子自立支援員・民生委員児童委員がひとり親家庭等の相談相手となり、自立に向けて支援をします。	福祉グループ		母子自立支援員・民生委員児童委員がひとり親家庭等の相談を受けた。今後も引き続き、ひとり親家庭等の自立支援を行っていく。

〔2〕障がいのある子ども等に対する保育・教育の充実

障がいのある子どもが住みなれた地域で健やかに育つことができるよう、保健・福祉・医療・教育等の支援体制を整え、各種相談や療育の充実を図るとともに、在宅福祉サービスの充実、経済的支援に努めます。

（1）障がいのある子ども等の自立支援の充実

主要な施策（事業）	取組み方針	グループ	平成21年度評価	平成22年度評価
地域生活支援事業	障がいのある人（子ども）が、その有する能力や適性に応じた日常生活または社会生活を営むことができるよう、相談支援、日常生活用具の給付、外出のための支援等を行います。	福祉グループ		相談支援、日常生活用具の給付、移動支援（外出介護）等の支給決定を行った。今後も障がい者（児）の地域生活を支援するため、事業の充実を図りたい。

自立支援給付	障がいのある人（子ども）に対し介護給付費（居宅介護・短期入所等）補装具費等を支給することにより、障がいのある人の社会生活の支援と家族等の負担の軽減を図ります。	福祉グループ		障がい者（児）の地域生活と自立を支援する観点から、近隣で基盤整理されているサービスについて、有効利用できるよう支給決定した。
障害者（児）医療費助成事業	障がいのある人（子ども）の経済的負担の軽減を図るため、障害者医療費の助成制度の広報と充実に努めます。	保険年金グループ		障がい者（児）に対し、医療費を一部助成することにより、経済的負担の軽減を図った。
障がいのある子どもへの各種手当の支給	在宅の障がいのある子どもに障害児福祉手当、特別児童扶養手当等を支給することにより、経済的及び精神的負担の軽減を図ります。（一部所得制限あり）	福祉グループ		20歳未満の児童で、精神または身体に重度の障がいを有するために日常生活において常時介護を必要とする方に、障がい児福祉手当を支給した。

〔2〕療育体制の充実

主要な施策（事業）	取組み方針	グループ	平成21年度評価	平成22年度評価
療育事業の推進	障がいのある子ども等を対象に、言語聴覚士・心理士・理学療法士・作業療法士による訓練、相談等を実施することにより、家族の負担軽減を図り、障がい児の健やかな発育を支援します。また、保育所や幼稚園の巡回相談を実施し、園との連携に努めます。	福祉グループ すこやか環境グループ	<p>【福祉グループ】</p> <p>障がい児水泳教室を開催し、水に慣れ親しむことを目的に水中でのリハビリを実施した。12名参加。</p> <p>【すこやか環境グループ】</p> <p>近年、発達障害についての相談が増加し、既存の訓練や相談枠内では対応が困難になっている。このため、平成22年度は新たに月2回の母子相談を設け、心理士・作業療法士・保健師が発達に関わりの問題を持つ子どもと保護者への支援を行う。</p>	<p>【福祉グループ】</p> <p>障がい児水泳教室を開催し、水に慣れ親しむことを目的に水中でのリハビリを実施した。9名参加。</p> <p>【すこやか環境グループ】</p> <p>近年、発達障害についての相談が増加し、既存の訓練や相談枠内では対応が困難になっている。このため、平成22年度は新たに月2回の母子相談を設け、心理士・作業療法士・保健師が発達に関わりの問題を持つ子どもと保護者への支援を行った。</p>

〔3〕不登校・問題行動等への対応

不登校・問題行動等への対応のため、小・中学校へスクールカウンセラーを配置することで相談体制の充実を図り、また児童・生徒やその保護者が気軽に相談できる体制づくりに努めます。

また、青年期の心理的・社会的に自立困難なひきこもりに対しても、相談・支援体制の充実を図ります。

主要な施策（事業）	取組み方針	グループ	平成21年度評価	平成22年度評価
スクールカウンセラーの配置	悩みを持つ児童・生徒及びその保護者等に対し、カウンセラーによる教育相談を実施するとともに、個に応じた指導に努めます。また、児童・生徒やその保護者が気軽に相談できる体制づくりに努めます。	学校教育グループ	県費スクールカウンセラーを配置し、全小中学校で充実した相談活動ができるようになった。	県費スクールカウンセラーを配置し、全小中学校で充実した相談活動ができるようになった。また、ふれあいルームとの連携強化に努めた。

<p>適応指導教室の充実</p>	<p>不登校傾向や不登校の状態にある児童・生徒を対象に、個に応じたゆとりある活動と自立支援を展開し、集団への適応指導を行い、児童・生徒の自信や自尊感情を回復するなど、個に応じた対応により、学校復帰を目指す取り組みの充実に努めます。</p>	<p>学校教育グループ</p>	<p>学校と連携しながら、不登校生の学校復帰に取り組むとともに、新しく不登校生を出さない指導を心がけた。特に、各学校の不登校担当者を中心に校内指導体制を強化し、学校の別室と連携しながら個人に応じた対応ができた。</p>	<p>学校と連携しながら、不登校生の学校復帰に取り組むとともに、新しく不登校生を出さない指導を心がけた。特に、各学校の不登校担当者を中心に校内指導体制を強化し、ふれあいルームや学校の別室と連携しながら個人に応じた対応ができた。特に中学校の不登校生徒数が減少した。</p>
<p>不登校・ひきこもりに関する関係機関ネットワークの整備</p>	<p>不登校・ひきこもり、また青年期の若者を取り囲むさまざまな問題に適切な対応が図られるよう、「子ども・若者育成支援推進法」の趣旨を踏まえて、保健・福祉・教育が連携した取り組みを推進します。 さらに、要保護児童対策地域協議会における関係機関の連携のもと、当該児童及びその保護者に関する情報収集及び適切な支援に努めます。 また、健康福祉事務所の専門相談やこどもセンターと連携し、ひきこもりに関する相談体制の充実を図り、関係機関のネットワークの実現を目指します。</p>	<p>学校教育グループ 福祉グループ すこやか環境グループ 生涯学習グループ</p>	<p>【学校教育グループ】 学校や教育委員会で関係機関（福祉Gや民生委員等）と連携を図り、引きこもり児童・生徒ゼロをめざしたが様々な家庭環境があり苦慮した。来年度も引き続き努力する。 【福祉グループ】 要保護児童対策地域協議会を構成する関係機関や団体等の連携のもとに、当該児童及びその保護者に関する情報収集及び適切な支援に努めた。</p>	<p>【学校教育グループ】 学校や教育委員会で関係機関（福祉Gや民生委員等）と連携を図り、引きこもり児童・生徒ゼロをめざした結果、不登校児童生徒数を減少できた。来年度も引き続き努力をしていきたい。 【福祉グループ】 要保護児童対策地域協議会を構成する関係機関や団体等の連携のもとに、当該児童及びその保護者に関する情報収集及び適切な支援に努めた。</p>

3. 児童虐待の防止と虐待のないまちづくりの推進

主要施策

〔1〕児童虐待防止対策の推進

【主要施策】

〔1〕児童虐待防止対策の推進

児童虐待防止ネットワークの推進により児童虐待防止対策の充実を図るとともに、保健・福祉・医療・教育等の関係機関が個々の子育て世帯に寄り添うことで、児童虐待の未然防止、早期発見・早期対応、再発防止を図り児童虐待のないまちを目指します。

（1）児童虐待防止ネットワークの推進

主要な施策（事業）	取組み方針	グループ	平成21年度評価	平成22年度評価
(仮称)播磨町児童虐待防止ネットワークの推進	要保護児童対策地域協議会において、関係機関が連携し、児童虐待の未然防止から早期発見・早期対応、さらには被虐待児童の適切な保護に至るまでの総合的、組織的な対応を推進します。また、ネットワークの推進にあたり、地域住民やNPOなど地域に根ざした組織・団体にもネットワークの構成団体となり、児童虐待予防のためのセーフティネットとしてきめ細かな取り組みを強化していきます。	福祉グループ	昨年度に引き続き、要保護児童対策地域協議会において、代表者会議・実務者会議・研修会等を実施し、関係機関の連携を深めた。特に実務者会議は2カ月に1回、定期的開催し、要保護児童への支援について進捗管理を行い、適切な対応に努め、児童虐待に関わる機関のネットワークづくりを推進する。	昨年度に引き続き、要保護児童対策地域協議会において、代表者会議・実務者会議・研修会等を実施し、関係機関の連携を深めた。特に実務者会議は2カ月に1回、定期的開催し、要保護児童への支援について進捗管理を行い、適切な対応に努め、児童虐待に関わる機関のネットワークづくりを推進する。

(2) 虐待のないまちづくりの推進

主要な施策(事業)	取組み方針	グループ	平成21年度評価	平成22年度評価
虐待の早期発見・早期対応に向けた予防啓発の推進	地域・学校・保健・福祉・医療等の関係機関が連携を図り、育児支援家庭訪問事業を推進するとともに、虐待を発見した場合の通報義務など地域住民・保護者に向けた予防啓発に取り組み、虐待の早期発見・早期対応につなげます。	福祉グループ すこやか環境グループ 学校教育グループ 生涯学習グループ	<p>【福祉グループ】 昨年度に引き続き、要保護児童対策地域協議会において、代表者会議・実務者会議・研修会等を実施し、関係機関の連携を深めた。特に実務者会議は2ヶ月に1回を定期的開催し、要保護児童への支援について進捗管理を行い、適切な対応に努め、児童虐待に関わる機関のネットワークづくりを推進する。</p> <p>【すこやか環境グループ】 新生児訪問や乳幼児健診などの機会を捉え、虐待の早期発見や予防啓発に努めた。</p> <p>平成22年度は、乳幼児健診未受診者の訪問を徹底し、虐待の早期発見・早期対応に努める。</p> <p>【学校教育グループ】 教職員を対象に、児童虐待防止等についての啓発や周知の徹底を図ってきた。民生委員、主任児童委員との情報交換会を行い、連携を図った。必要に応じ、民生児童委員との日常的な連携も充実してきた。さらに、要保護児童対策協議会に参加し、関係機関とともにケース検討を行った。</p> <p>【生涯学習グループ】 「人権教育のすすめ」等を通じて児童虐待に関わる啓発を行った。</p>	<p>【福祉グループ】 昨年度に引き続き、要保護児童対策地域協議会において、代表者会議・実務者会議・研修会等を実施し、関係機関の連携を深めた。特に実務者会議は2ヶ月に1回を定期的開催し、専任の児童相談員を配置し、町内の学校園を定期的に巡回し、要保護児童への支援について進捗管理を行い、適切な対応に努め、児童虐待に関わる機関のネットワークづくりを推進する。</p> <p>【すこやか環境グループ】 新生児訪問や乳幼児健診などの機会を捉え、虐待の早期発見や予防啓発に努めた。また、乳幼児健診未受診者の訪問を徹底した。</p> <p>【学校教育グループ】 昨年度に引き続き、教職員を対象に、児童虐待防止等についての啓発や周知の徹底を図ってきた。民生委員、主任児童委員との情報交換会を行い、連携を図った。必要に応じ、民生児童委員との日常的な連携も充実してきた。さらに、要保護児童対策協議会に参加し、関係機関とともにケース検討を行った。</p> <p>【生涯学習グループ】 「人権教育のすすめ」等を通じてデートDVに関わる啓発を行った。</p>
教職員・保育士等に対する研修の充実	要保護児童対策地域協議会において、保育所・幼稚園、小中学校・子育て支援センター職員を対象に、虐待の早期発見に結びつくよう、研修の充実を図ります。	福祉グループ 学校教育グループ	<p>【福祉グループ】 「要保護児童対策地域協議会」において、保育園・幼稚園小中学校・子育て支援センター職員を対象に児童虐待防止に関する研修会を実施した。</p> <p>【学校教育グループ】 職員会議などを通して教職員への啓発を図るとともに研修会を実施した。</p>	<p>【福祉グループ】 「要保護児童対策地域協議会」において、保育園・幼稚園小中学校・子育て支援センター職員を対象に児童虐待防止に関する研修会を実施した。</p> <p>【学校教育グループ】 職員会議などを通して教職員への啓発を図るとともに研修会を実施した。来年度は、就学指導と特別支援教育を重点に保育園との連携を一層強化していきたい。</p>
養育支援訪問事業	子育てに関する悩みを抱え、さまざまな原因で養育支援が必要となっている家庭に対して、保健師・ヘルパーがその家庭を訪問し養育に関する指導などを実施し、問題の解決や負担軽減に努めます。	福祉グループ	/	<p>養育支援が必要な家庭に対して、保健師やヘルパーなどが訪問支援を行い、負担軽減を図った。</p> <p>〔訪問件数〕 育児・家事援助：52件 専門的相談支援：16件</p>
こんにちは赤ちゃん事業	生後4か月までの赤ちゃんがいる家庭を対象に、地域の民生委員児童委員と主任児童委員が子育て家庭を訪問し、町の子育て支援に関する情報提供や子育てに関する悩みや不安を聞くことにより、育児不安の軽減を図ります。また地域と子育て家庭をつなぐきっかけづくりを図ります。	福祉グループ	/	地域での子育て家庭の孤立化を防ぎ、子育て情報の提供を行うことにより、地域での子育て支援を進めた。引き続き実施していく。

第3節 播磨町の未来を担う世代づくり

1. 子どもの権利を尊重する地域社会づくり

主要施策

- 〔1〕子どもの権利の擁護と意識啓発の推進
- 〔2〕子どもの思いをくみ取る取り組み

【主要施策】

〔1〕子どもの権利の擁護と意識啓発の推進

家庭・地域・学校などさまざまな場面において、子どもの権利に対する理解を深め、子どもの人権を脅かす問題の予防や適切な対応を図る相談支援体制の整備、児童・生徒の健全育成活動の推進を図ります。

（1）子どもの権利に関する意識啓発の推進

主要な施策（事業）	取組み方針	グループ	平成21年度評価	平成22年度評価
「子どもの権利条約」の普及・啓発	子どもの権利に対する認識を深めるため、「子どもの権利条約」の趣旨の理解促進を図る啓発活動を引き続き行い、子どもの権利が保障される地域づくり・意識づくりを図ります。	生涯学習グループ 福祉グループ 学校教育グループ	<p>【福祉グループ】</p> <p>小学校において、人権擁護委員により、低学年用の人権をテーマにした小冊子の読み聞かせをし、人権についての意識を深めた。</p> <p>【生涯学習グループ】</p> <p>町広報での特集や「人権教育のすすめ」等による理解・指導をはじめ、人権文化をすすめる町民運動推進強調月間や人権週間に啓発活動を行った。</p>	<p>【福祉グループ】</p> <p>小学校において、人権擁護委員により、低学年用の人権をテーマにした小冊子の読み聞かせをし、人権についての意識を深めた。</p> <p>【生涯学習グループ】</p> <p>町広報での特集や「人権教育のすすめ」等による理解・指導をはじめ、人権文化をすすめる町民運動推進強調月間や人権週間に啓発活動を行った。</p>
人権教育推進事業	人権教育啓発図書及びビデオ教材を活用して、各学校園の児童・生徒や保護者が豊かな人権感覚を育むことができるよう人権教育を充実します。また、参加型学習など、新たな学習方法も取り入れながら子どもと保護者への人権教育を推進します。	生涯学習グループ 福祉グループ 学校教育グループ	<p>【生涯学習グループ】</p> <p>いじめや命の尊さ等をテーマとした人権啓発ビデオ教材（アニメーション等）の充実を図るとともに、子ども会やPTA（父母の会）等での活用を促した。</p> <p>【福祉グループ】</p> <p>小学校において人権擁護委員により人権小冊子の読み聞かせを行い、人権についての意識を深めた。</p> <p>保育園では、日々の保育の中で、絵本や紙芝居を活用して命の大切さや相手の立場に立って考えることを繰り返し伝えている。</p> <p>【学校教育グループ】</p> <p>各学校園ではカリキュラムに沿った人権学習を行った。また小学校4年生を対象にCAP学習を行い、教</p>	<p>【生涯学習グループ】</p> <p>いじめや命の尊さ等をテーマとした人権啓発ビデオ教材（アニメーション等）の充実を図るとともに、子ども会やPTA（父母の会）等での活用を促した。</p> <p>【福祉グループ】</p> <p>小学校において人権擁護委員により人権小冊子の読み聞かせを行い、人権についての意識を深めた。</p> <p>保育園では、日々の保育の中で、絵本や紙芝居を活用して命の大切さや相手の立場に立って考えることを繰り返し伝えている。</p> <p>【学校教育グループ】</p> <p>各学校の人権教育全体計画に沿って人権教育を行った。</p>

			師・保護者への研修も実施した。ライオンズクエスト研修を実施し中学校で活用した。	
--	--	--	---	--

(2) 子どもの権利を守るための相談機能の充実

主要な施策(事業)	取組み方針	グループ	平成21年度評価	平成22年度評価
子どもの権利を守る相談機能の充実	子育て支援センターでの相談・支援体制の充実とともに、要保護児童対策地域協議会等の運営により、母子保健事業での子育て相談、主任児童委員や人権擁護委員などとの連携を強化し、地域全体で子どもの権利を守るための支援機能の充実に努めます。	福祉グループ すこやか環境グループ	<p>【福祉グループ】</p> <p>南北子育て支援センターで常時相談・指導を実施した。(別途臨床心理士による相談を月1回実施。)また人権擁護委員による人権相談も実施した。これに加えて、「要保護児童地域対策協議会」等の運営により児童相談体制を強化し、適切な対応に努めた。</p> <p>今後も子どもの権利を守るための支援機能の充実に努める。</p> <p>【すこやか環境グループ】</p> <p>電話や訪問、医療機関からの情報提供等で受けた虐待に関する相談は、福祉グループを窓口、関係機関と連携して対応することとしている。</p>	<p>【福祉グループ】</p> <p>南北子育て支援センターで常時相談・指導を実施した。(別途臨床心理士による相談を月1回実施。)また人権擁護委員による人権相談も実施した。これに加えて、「要保護児童地域対策協議会」等の運営により児童相談体制を強化し、適切な対応に努めた。</p> <p>今後も子どもの権利を守るための支援機能の充実に努める。</p> <p>【すこやか環境グループ】</p> <p>電話や訪問、医療機関からの情報提供等で受けた虐待に関する相談は、福祉グループを窓口、関係機関と連携して対応している。</p>

(3) 人権尊重の視点に立った教育・保育の充実

主要な施策(事業)	取組み方針	グループ	平成21年度評価	平成22年度評価
教職員・保育士の資質の向上	教育・保育現場では、子ども一人ひとりの基本的人権を尊重した教育・保育を実践するとともに、教職員等に対する研修を充実し、資質の向上を図ります。	福祉グループ 学校教育グループ	<p>【福祉グループ】</p> <p>教職員対象の講演会、研修会に保育士の参加を促すよう情報提供を行い、資質向上に努めた。</p> <p>【学校教育グループ】</p> <p>年間研修計画に位置づけて、教職員対象に研修会を実施した</p>	<p>【学校教育グループ】</p> <p>年間研修計画に位置づけて、教職員対象に研修会を実施した。来年度は、保育園との連携した研修会を実施したい。</p>
男女共同参画の視点に立った教育・保育の推進	保育所の保育士や幼稚園、小・中学校の教職員が男女共同参画社会の理念に基づき、男女共同参画と人権尊重について研修を積み重ね、しっかりとした認識を持って子どもたちを取り巻く環境の整備を行うとともに、日常生活や保育・授業のなかで指導・援助に努め、その推進を図ります。	福祉グループ 学校教育グループ	<p>【福祉グループ】</p> <p>教職員対象の講演会、研修会に保育士の参加を促すよう情報提供を行い、資質向上に努めるとともに、男女による固定概念にとらわれないような工夫をした。</p> <p>【学校教育グループ】</p> <p>年間研修計画に位置づけて、教職員対象に研修会を実施した。</p>	<p>【福祉グループ】</p> <p>教職員対象の講演会、研修会に保育士の参加を促すよう情報提供を行い、資質向上に努めるとともに、男女による固定概念にとらわれないような工夫をした。</p> <p>【学校教育グループ】</p> <p>年間研修計画に位置づけて、教職員対象に研修会を実施した。</p>

〔 2 〕 子どもの思いをくみ取る取り組み

言葉によって意思を正確に伝えることができない乳幼児の思いをくみ取り、広く伝える取組みを進めるとともに、子どもが意見を述べる機会を設定し、子どもと大人が協働してまちづくりに参加できる環境の整備を図ります。

(1) 子どもの思いをくみ取る手法の研究

主要な施策（事業）	取組み方針	グループ	平成 2 1 年度評価	平成 2 2 年度評価
乳幼児のつぶやき全集の作成	家庭や保育所、幼稚園などでの乳幼児のつぶやきを書き留めながら、保護者とのコミュニケーションを心がけ、子どもたちの意思をくみ取り、広く伝える取組みを進めます。	福祉グループ 学校教育グループ	<p>【福祉グループ（保育園）】</p> <p>日々の保育の中で、園児のつぶやき、保育士との会話を書きとめ、クラスだより等で保護者に配布した。家庭での会話についても、連絡ノートで把握するよう努めた。</p> <p>【学校教育グループ】</p> <p>常に子どもに寄り添い、子どもとの会話を大切にし、子どもの思いをくみ取る指導を心がけた。また、登降園時には保護者と話せる時間をつくり、連携を密に図った。</p>	<p>【福祉グループ（保育園）】</p> <p>日々の保育の中で、園児のつぶやき、保育士との会話を書きとめ、クラスだより等で保護者に配布した。家庭での会話についても、連絡ノートで把握するよう努めた。</p> <p>【学校教育グループ】</p> <p>昨年度に引き続き、常に子どもに寄り添い、子どもとの会話を大切にし、子どもの思いをくみ取る指導を心がけた。また、登降園時には保護者と話せる時間をつくり、連携を密に図った。</p>

(2) 子どもが参画できるまちづくりの推進

主要な施策（事業）	取組み方針	グループ	平成 2 1 年度評価	平成 2 2 年度評価
子どもが意見発表できる機会や場の充実	まちづくりに関し、子ども自身が主体的に意見を発表できる場や機会の充実を図るとともに、子どもの意見を反映したまちづくりを推進します。	企画グループ 学校教育グループ 生涯学習グループ	<p>【企画グループ】</p> <p>播磨ゆめづくり事業で小学校において親子キャンプを行い、子ども達を中心となり、ピオトープの生物観察や整備を行ったり、竹細工に挑戦するなど、保護者・学校・地域を巻き込み子供の夢づくりに取り組んだ。</p> <p>【学校教育グループ】</p> <p>県民局主催の「少年の主張」や「未来をひらく少年会議」で町内中学生が意見発表を行った。今後も積極的にそのような機会を捉えて参加させていきたい。</p> <p>【生涯学習グループ】</p> <p>子ども会行事の一環として、北・東播磨地区子ども会議に参加した。</p>	<p>【企画グループ】</p> <p>播磨ゆめづくり事業で、子ども達が社会体験を行う場としてコミセン夏祭りや大中遺跡まつりに模擬店を出店し自ら運営を行うことで、地域の人との多世代交流を行った。</p> <p>【学校教育グループ】</p> <p>県民局主催の「少年の主張」や「未来をひらく少年会議」で町内中学生が意見発表を行った。今後も積極的にそのような機会を捉えて参加させていきたい。</p> <p>特に来年度は、ハートランド弁論大会への中学生を参加させたい。</p> <p>【生涯学習グループ】</p> <p>子ども会行事の一環として、北・東播磨地区子ども会議に参加した。</p>

<p>子ども参画型事業の推進</p>	<p>まちづくりや環境問題、防火・防災、選挙、青少年健全育成活動などの広報・啓発活動に子どもの参加・参画を広く募り、子どもの視点を生かしたまちづくりに努めます。</p>	<p>企画グループ 学校教育グループ 生涯学習グループ 危機管理グループ</p>	<p>【企画グループ】 国際平和非核自治体事業、国際交流事業への参加者を募集した。実施後、感想・意見を広報はりに掲載した。また、夏休み期間中に平和映画会、平和記念講話会、平和展なども開催した。</p> <p>【学校教育グループ】 県民局主催の各種会議に今後も積極的に参加した。</p> <p>【生涯学習グループ】 今年度も新たなプログラムで防災キャンプを実施し、子どもの自主的な行動や防災教育に活かすよう努めた。</p>	<p>【企画グループ】 国際平和非核自治体事業、国際交流事業への参加を募集し、実施後、感想・意見を広報はりに掲載した。また、夏休み期間中に平和映画会、平和祈念講話会、平和展なども開催した。</p> <p>【学校教育グループ】 県民局主催の各種会議に今後も積極的に参加した。また、大中遺跡まつり等の町行事にボランティアとして参加した。</p> <p>【生涯学習グループ】 子ども防災キャンプを実施し、子どもの自主的な行動や防災教育に活かすよう努めた。</p> <p>【危機管理グループ】 防災ポスターを募集し、石ヶ池公園パークセンター、中央公民館で展示した。</p>
--------------------	--	--	---	--

2. 次代の親の育成

主要施策

〔1〕子育てに関する学習や体験機会の充実

【主要施策】

〔1〕子育てに関する学習や体験機会の充実

子どもの発達過程に応じ適切な子育てができるよう、家庭教育に関する情報提供や相談、学習機会の充実とともに、親子のきずなを深める体験・交流活動機会の充実を図ります。

(1) 親子のきずなを深める学習機会の充実

主要な施策（事業）	取組み方針	グループ	平成21年度評価	平成22年度評価
講演会や学習会の開催	望ましい家庭環境や子どもへの接し方、親育ちの大切さについて理解を深めるための講演会や学習会などを実施するとともに、学んだことを実践できる環境づくりに努めます。	福祉グループ すこやか環境グループ 学校教育グループ 生涯学習グループ	<p>【福祉グループ】 保育園や子育て支援センターで保護者を対象に、親子の健康講座（歯のお話し、発育と発達）や各年齢に焦点をあてた親子で学ぶ連続講座やベビーマッサージ、イヤイヤ期の過ごし方、トイレトレーニングの考え方など親子の絆を深める講習会等を実施した。今後も保護者のニーズを踏まえた講習会等を実施していく。</p> <p>【すこやか環境グループ】 町内2校の中学校で思春期体験学習を実施した際、子育て支援センターと連携し、子育て中の母親に、妊娠中から子育てをしている現在までの自分の経験談や思いを語ってもらうことで、自分自身を振り返る機会にもなった。</p> <p>【学校教育グループ】 1月に家庭教育推進委員会主催で子育ての講演会（元気がでる子育て）を開催した。</p> <p>【生涯学習グループ】 播磨町子連協の親子を対象に地域・家庭づくりへの貢献ができる行事（芸術鑑賞会・「のんのんばあとオレ」）を実施した。</p>	<p>【福祉グループ】 保育園や子育て支援センターで保護者を対象に、親子の健康講座（歯のお話し、発育と発達）や各年齢に焦点をあてた親子で学ぶ連続講座やベビーマッサージ、イヤイヤ期の過ごし方、トイレトレーニングの考え方など親子の絆を深める講習会等を実施した。今後も保護者のニーズを踏まえた講習会等を実施していく。</p> <p>【すこやか環境グループ】 町内2校の中学校で思春期体験学習を実施した際、子育て中の母親（父親）に、妊娠中から子育てをしている現在までの自分の経験談や思いを語ってもらうことで、自分自身を振り返る機会になった。</p> <p>【学校教育グループ】 1月に家庭教育推進委員会主催で「良い食は人をよくする、世界を変える」をテーマに講演会を開催した。</p> <p>【生涯学習グループ】 播磨町子連協の親子を対象に地域・家庭づくりへの貢献ができる行事（芸術鑑賞会・「天満のとらやん」）を実施した。</p>

<p>家庭教育推進事業の充実</p>	<p>乳幼児期の家庭教育に関する学習機会の提供と育児に関する情報提供や相談、交流などができる子育てに関する教室・講座の充実を図ります。また、保育所、幼稚園、小・中学校の保護者を対象に家庭教育に関する啓発資料を発行します。資料に関して一貫性のあるテーマを設定し、子どもの成長に合った支援ができるよう配慮します。</p>	<p>学校教育グループ</p>	<p>【学校教育グループ】 幼稚園において学習会を行った。家庭教育啓発事業で講演会を実施し家庭教育の啓発に努めた。</p>	<p>【学校教育グループ】 家庭教育啓発事業で講演会を実施し家庭教育の啓発に努めた。今年度は、家庭学習の手引き「こどもたちの輝く未来のために - 家庭でできること - 」を作成し、配布した。</p>
--------------------	--	-----------------	---	---

(2) 異年齢・多世代間交流の充実

主要な施策(事業)	取組み方針	グループ	平成21年度評価	平成22年度評価
<p>乳幼児とのふれあい・交流機会の充実</p>	<p>従来の乳幼児と高齢者とのふれあい・交流を中心とした事業に加え、小・中学生や高校生が乳幼児とのふれあい体験を通じて、子どもを産み育てることや生命の大切さなどを学ぶことができるよう、総合的な学習の時間などを活用して事業の充実を図ります。また、社会福祉協議会とも連携し、交流機会の充実に努めます。</p>	<p>福祉グループ すこやか環境グループ 学校教育グループ</p>	<p>【福祉グループ】 子育て支援センターや保育園では、中学校のトライやる生徒を受け入れ、異年齢の交流体験を実施した。また一部の園では、社会福祉協議会主催の中学生から大学生を対象とした保育体験事業を受け入れた。(播磨町社会福祉協議会主催) 【すこやか環境グループ】 町内2校の中学3年生を対象に、思春期体験学習を実施した。今後も形態や内容については吟味し、学校・地域とともに実施することで、乳幼児とのふれあい・交流の場を提供する。 【学校教育グループ】 小学校や中学校と幼稚園、保育園の交流は特に「トライやる・ウィーク」を通して充実したが、乳幼児とのふれあいについては、思春期体験学習以外は難しい。</p>	<p>【福祉グループ】 子育て支援センターや保育園では、中学校のトライやる生徒を受け入れ、異年齢の交流体験を実施した。 【すこやか環境グループ】 町内2校の中学3年生を対象に、思春期体験学習を実施し、中学生と乳児・子育て中の母親(父親)とがふれあう場を提供した。 【学校教育グループ】 昨年度に引き続き、小学校や中学校と幼稚園、保育園の交流は特に「トライやる・ウィーク」を通して充実したが、乳幼児とのふれあいについては、思春期体験学習を実施した。</p>
<p>多世代・異年齢がふれあい・交流できる拠点の充実</p>	<p>保育所、幼稚園、小・中学校をはじめ福祉施設や地域の各種施設を、子どもの遊び場や地域住民と子どもとの交流の場や子どもと高齢者のふれあいの場など、地域のふれあい・交流の拠点として有効活用し拠点の充実を進めます。</p>	<p>福祉グループ すこやか環境グループ 学校教育グループ 生涯学習グループ</p>	<p>【福祉グループ】 保育園では地域の高齢者との交流を実施し、地域交流の拠点として定着している。また一部の園で中学生から大学生を対象とした保育体験事業を行った。(播磨町社会福祉協議会主催) 南北子育て支援センターにおいては、地域活動組織(母親クラブ)と共催で、「七夕まつり」「クリスマス会」「豆まき」等の季節に合わせた交流活動を行なうとともに、地域交流講座を実施し地域の様々な年代の方の参加が得られた。 北部子育て支援センターでは、幼稚園、保育園に隣接する立地条件を活かし、日常的な交流を土台として地域</p>	<p>【福祉グループ】 保育園では地域の高齢者との交流を実施し、地域交流の拠点として定着している。 南北子育て支援センターにおいては、地域活動組織(母親クラブ)と共催で、「七夕まつり」「クリスマス会」「豆まき」等の季節に合わせた交流活動を行なうとともに、地域交流講座を実施し地域の様々な年代の方の参加が得られた。 北部子育て支援センターでは、幼稚園、保育園に隣接する立地条件を活かし、日常的な交流を土台として地域住民の方を含めた合同の行事も行った。 また、「トライやる・ウィーク」を通して中学生との</p>

		<p>住民の方を含めた合同の行事も行った。</p> <p>また、「トライやる・ウィーク」を通して中学生との交流、長期休暇中には小学生による絵本の読み聞かせ等を実施し、異年齢の子どもたちのふれあい交流を図ることができた。</p> <p>今後も各施設において、異年齢の交流を実施していく。</p> <p>【学校教育グループ】</p> <p>「トライやる・ウィーク」を通して校種間の交流ができた。高齢者との交流は幼稚園や小学校低学年で充実した。今後は、「学校支援地域本部事業」を中心により活性化させていく。</p> <p>【生涯学習グループ】</p> <p>社会教育施設での「トライやる・ウィーク」の受け入れや、放課後子ども教室で地域の高齢者及び地域住民ボランティアとの交流を行った。</p> <p>「人権尊重の地域づくり事業」等を通じて子どもや高齢者の世代間交流を促進した。</p>	<p>交流、長期休暇中には小学生による絵本の読み聞かせ等を実施し、異年齢の子どもたちのふれあい交流を図ることができた。</p> <p>今後も各施設において、異年齢の交流を実施していく。</p> <p>【学校教育グループ】</p> <p>「トライやる・ウィーク」を通して校種間の交流ができた。高齢者との交流は幼稚園や小学校低学年で充実した。また、新島連絡協議会の協力を得て、新規事業所の開拓をすることができた。</p> <p>【生涯学習グループ】</p> <p>社会教育施設での「トライやる・ウィーク」の受け入れや、放課後子ども教室で地域の高齢者及び地域住民ボランティアとの交流を行った。</p> <p>「人権尊重の地域づくり事業」等を通じて子どもや高齢者の世代間交流を促進した。</p>
--	--	---	---

3. 豊かな心と主体的に生きる力を育む教育の推進

主要施策

- 〔1〕次代を担う子どもを育成する就学前教育・学校教育の推進
- 〔2〕多様な体験活動の機会の充実

【主要施策】

〔1〕次代を担う子どもを育成する就学前教育・学校教育の推進

子どもたちが自主性、社会性、創造性などのさまざまな能力を自然に伸ばし、生きる力を身に付けることができるよう、就学前教育の充実を図ります。

また、学校教育においては、基礎学力の向上を図るとともに、総合的な学習の時間などを活用した多様な体験活動を積極的に取り入れ、児童・生徒一人ひとりの個性や創造性を伸ばす教育を推進します。

(1) 幼児教育の推進

主要な施策（事業）	取組み方針	グループ	平成21年度評価	平成22年度評価
地域に開かれた幼稚園づくり	未就園の子ども同士が互いに遊び交流できる場を提供する（ひよこ教室）とともに、保護者の不安や悩みの相談に応じ、子育ての楽しさや喜びが味わえるような機会を提供するなど、幼稚園が地域の教育センターとしての機能の充実に努め、地域に開かれた幼稚園づくりを推進します。	学校教育グループ		ひよこ教室を3園とも実施をしている。また、子育て相談の日などの教育相談日をもうけて保護者からの相談に対応しており、毎日の降園時にも対応している。
保育所・幼稚園の連携の推進	乳幼児の公平な教育や保育環境を提供するため、教育内容・保育内容の整合性の確保や合同研修の実施に努めるとともに、子育て支援事業の実施や両施設の有効利用について連携を図ります。	福祉グループ 学校教育グループ		保育所・幼稚園の横の連携については今後の課題であるが、就学指導に関しては教育委員会を中心に連携をしている。

(2) 児童・生徒の個性や創造性を伸ばす学校教育の充実

主要な施策（事業）	取組み方針	グループ	平成21年度評価	平成22年度評価
学力向上推進事業の推進	児童・生徒が学校生活や学習を円滑に進め、基礎学力の着実な定着が図られるよう指導内容等の充実に努めます。	学校教育グループ	少人数指導・同室複数指導を中心に、きめ細かな指導を行い、新学習指導要領の移行に向けて態勢を整えることができた。	少人数指導・同室複数指導を中心に、きめ細かな指導を行い、整備されたICT機器の効果的な活用を進めた。また、小学校では新学習指導要領の完全実施、中学校では新学習指導要領の移行に向けて態勢を整えることができた。
きめ細やかな児童・生徒指導推進事業の推進	児童・生徒一人ひとりの人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めるよう学校一体となった指導・支援体制を整備・充実します。	学校教育グループ	青少年育成推進委員会を中心に関係団体と連携を図り連携が強化できた。	青少年育成推進委員会を中心に関係団体と連携を図り連携が強化できた。特別支援教育に係る研修会を充実させ、障がいをもつ児童生徒のみならず全ての児童生徒に対してきめ細かな指導を心がけた。

児童・生徒の個性に応じた進路指導の充実	児童・生徒の持つ能力や適性など一人ひとりの良さを踏まえた進路指導を推進し、個に応じた進路選択ができるよう支援します。また、幼稚園・小学校・中学校と発達段階を踏まえた指導ができるよう努めます。	学校教育グループ	キャリア教育については難しい。幼・小・中それぞれの発達段階を踏まえたカリキュラムの作成には至らなかった。また障害を持つ生徒の進路については課題がある。	キャリア教育については難しい。幼・小・中それぞれの発達段階を踏まえたカリキュラムの作成には至っていないが、校種間連携の強化に努め情報交換するなかで進路指導の充実を図った。
良好な教育環境の整備	未来を担う子どもたちに対し、より良い教育環境を提供します。	教育総務グループ	昨年度に引き続き、読書活動推進事業として図書環境の充実を図った。	昨年度に引き続き、読書活動推進事業として図書環境の充実を図った。また、情報リテラシー教育アドバイザーの配置することで、ICT 機器の環境整備に努めた。
交流教育の推進	ノーマライゼーションの理念のもと、特別支援学校（養護学校）在籍の児童・生徒と町内小・中学校在籍の児童・生徒が共に学ぶ機会を持ち、共に学び、共に育ち、共に暮らす社会の実現を目指します。	学校教育グループ	特別支援学校（養護学校）との交流を計画的に行っている。また、校内においては交流授業を中心にともに学ぶ機会を作った。	特別支援学校（養護学校）との交流を計画的に行っている。また、校内においては交流授業を中心にともに学ぶ機会を作った。
特別支援教育の充実	児童・生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援します。また、特別支援コーディネーターを中心に関係機関との連携を図りながら、障がいのある児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握するとともに、生活や学習上の困難を克服するための指導や支援に必要な措置を行います。	学校教育グループ	適正な就学指導を行うとともに、特別支援コーディネーターを中心に関係機関との連携を図りながら、園児・児童・生徒一人ひとりの実態に応じた支援の仕方を校内委員会等で話し合い、個に応じた指導を行うことができた。	特別支援教育に係る研修会の充実を図り、適正な就学指導を行うことができた。また、特別支援コーディネーターを中心に関係機関との連携を図りながら、園児・児童・生徒一人ひとりの実態に応じた支援の仕方を校内委員会等で話し合い、個に応じた指導を行うことができた。来年度は、保育園との連携を進めたい。
在日外国人及び帰国者の児童・生徒に対する指導の充実	在日外国人や帰国者の子ども等の学校生活や就学・進路選択のため、多文化共生サポーターを配置するなど支援の充実を図ります。	学校教育グループ	日本語指導を必要とする児童や生徒には、速やかに多文化共生サポーターを配置した。	日本語指導を必要とする児童や生徒には、速やかに多文化共生サポーターを配置した。

〔 2 〕 多様な体験活動の機会の充実

子どもを健やかに育成する施策とともに、地域の大人と子どもがともに豊かな心を育み、人間性豊かな人格の形成を促すため、地域でのさまざまな体験や交流活動を推進し、子どもに生きる力を培い、思いやりのあふれたまちづくりを目指します。

(1) 地域における体験活動の推進

主要な施策（事業）	取組み方針	グループ	平成 2 1 年度評価	平成 2 2 年度評価
トライやる・ウィークの実施	中学生が職場体験、福祉体験、勤労生産活動など、地域でのさまざまな体験活動を通じて働くことの意義や楽しさを実感したり、社会の一員としての自覚を高めるなど、生徒一人ひとりが自分の生き方をみつけられるよう支援します。	学校教育グループ		2 2 年度も実施し、職場体験などを通して、中学生に働くことの意義や楽しさを感じてもらえるよう支援した。
学校と家庭・地域社会の連携推進	開かれた学校づくりを踏まえ、児童・生徒や地域の実情に沿った創意工夫ある教育活動を推進します。	学校教育グループ	11 月の兵庫の教育強調月間とともにオープンスクールも定着してきた。学校支援地域本部事業も積極的に活用していく予定であったが新型インフルエンザの流行のため取組は不十分であった。	11 月の兵庫の教育強調月間とともにオープンスクールも定着してきた。学校支援地域本部事業も積極的に活用することに努めた。来年度は、学校からのニーズによりきめ細かく対応できるように学校支援地域本部事業を充実させたい。

郷土資料館・中央公民館主催講座の充実	子どもの居場所づくり事業として、郷土資料館や中央公民館で開催している各種教室について、事業内容を充実し、児童に対し、さまざまな体験学習の機会を提供します。	生涯学習グループ	【郷土資料館】 幼児から高齢者までが気軽に参加できる体験型の行事を実施した。	【郷土資料館】 郷土資料館では、石器作り、土器作りなどを行う親子文化財教室の充実・拡大を図った。 中央公民館では、子どもいきいき体験隊事業として、料理や茶道、いけばななどの体験教室を、年間を通じて実施した。
図書館活動の充実	「ブックスタート事業」や「としょかんまつり」等、図書館と地域が連携した体験活動や図書を活用した学習活動の充実を図り、子どもの主体的な学習意欲や社会性・協調性を育みます。	生涯学習グループ	平成18年4月より指定管理者で運営している。昨年度の事業を引き継ぎながら、新たな取り組みを検討した。	「ブックスタート事業」や「としょかんまつり」等、を継続して実施するとともに、新たに「図書館を使った調べる学習コンクール」を実施した。
子どもいきいき体験推進事業の充実	土曜日の居場所づくりとして、子どもたちが本物の文化にふれることのできるさまざまな体験文化活動や伝統文化の継承活動を推進します。	生涯学習グループ	子どもたちに本物の文化にふれさせる場としての、子連協主催の芸術鑑賞会を実施した。	子どもたちに本物の文化にふれさせる場としての、子連協主催の芸術鑑賞会を実施した。また、中央公民館での子どもいきいき体験隊事業では、茶道、いけばななどの体験教室を実施した。
環境保全意識を高める環境教育の推進	環境問題・環境保全に関し、身近な話題や地域にある題材などを活用して学習できる機会を提供し、幼児や児童の環境保全意識の向上に努めます。また、親とのコミュニケーションを図りながら体験できる機会を提供します。	すこやか環境グループ	「夏やすみおもしろ教室」を図書館と共催で開催。14日間で12講座を実施し、親子でリサイクルや環境について学習するとともに、地域の方を講師に迎えることで、地域とのつながりを図った。今後も引き続き実施予定である。	「夏やすみおもしろ教室」を図書館と共催で開催。14日間で10講座を実施し、親子でリサイクルや環境について学習した。今後も引き続き実施予定である。

(2) 国内外との交流活動の推進

主要な施策(事業)	取組み方針	グループ	平成21年度評価	平成22年度評価
国際理解教育の推進	外国人と子どもとのふれあいを通じ、諸外国の文化、習慣への理解を深めるとともに、自国の伝統や文化を大切に思う心を育み、国際社会で主体的に生きる態度と能力を培う教育を推進します。幼稚園や小学校低学年から英語活動に取り組むなど、早い時期からの外国語活動を推進します。	学校教育グループ	3年生からの小学校英語活動も軌道に乗ってきた。また幼稚園年長組や小学校1・2年生の英語活動も充実している。平成21年度から学習指導要領の移行で小学校5・6年生が必修となったが、播磨町としては従来の取組を英語活動とリンクさせスムーズな移行ができた。	3年生からの小学校英語活動も軌道に乗ってきた。また幼稚園年長組や小学校1・2年生の英語活動も充実している。新学習指導要領の完全実施に対応するため、5・6年生の外国語活動、3・4年生の国際理解教育のカリキュラムの見直しをおこなった。来年度も、播磨町としては従来の取組を継続し質の高い教育を目指したい。
地域間交流の推進	各地域で特色ある活動を行っている子どもたちと交流し、それぞれの郷土について理解し合うことで、本町への郷土愛や愛着を深める活動を推進します。	企画グループ	朝来市の小学生3,4年生と1泊2日でチャレンジ教室を実施し、1日目は朝来市で、2日目は播磨町で、それぞれの町の特徴を活かした活動を行うことにより、それぞれの町の違いを体験し、学ぶとともに、わが町への郷土愛や愛着を深めた。 また、参加希望者が多いので、平成22年度から定員を5名増やすこととした。	本町と朝来市の小学生3,4年生を対象に1泊2日でチャレンジ教室を実施し、1日目は朝来市で、2日目は播磨町で、それぞれの町の特徴を活かした活動を行った。 参加した子供達は、交流を深める中でそれぞれの町の違いを体験し、わが町への郷土愛や愛着を深めた。

第4節 愛情にあふれ、ゆとりを感じる家庭環境づくり

1. 子育てと仕事の両立支援

主要施策

- 〔1〕職場環境の改善のための働きかけ
- 〔2〕多様な就労形態への働きかけ

【主要施策】

〔1〕職場環境の改善のための働きかけ

男女が仕事と子育てを両立させながら継続就労ができるよう、企業に対し各種法制度の普及・啓発を引き続き行うとともに、子育てに対し理解と協力が得られる職場環境づくりへの働きかけに努めます。

(1) 育児休業制度等の普及・啓発

主要な施策（事業）	取組み方針	グループ	平成21年度評価	平成22年度評価
育児休業制度・介護休業制度などの普及・啓発	町内の事業所を対象に、育児休業や介護休業などを取得することへの理解と協力を得るため、パンフレットの配布や研修会などを通じ制度の普及・定着に努めます。	住民グループ	新島連絡協議会との行政懇談会において、21世紀職業財団が発行している「両立支援概要」等のパンフレットを、ここ数年続けて配布していることから、本年度は配布していない。 今後は、新島連絡協議会、広報及び商工会等を通してPRしていきたい。	新島連絡協議会との行政懇談会において、21世紀職業財団が発行している「両立支援概要」等のパンフレットを、ここ数年続けて配布していることから、配布していない。 今後は、新島連絡協議会、広報及び商工会等を通してPRしていきたい。
育児休業を取得した女性の職場復帰等に対する支援	「育児休業取得者に対する代替要員の確保及び原職等復帰を促進するための助成金制度」の利用について事業所に周知し、女性の就労支援を促進するための啓発活動に努めます。	住民グループ	新島連絡協議会との行政懇談会において、21世紀職業財団が発行している「両立支援概要」等のパンフレットを、ここ数年続けて配布していることから、本年度は配布していない。 今後は、新島連絡協議会、広報及び商工会等を通してPRしていきたい。	新島連絡協議会との行政懇談会において、21世紀職業財団が発行している「両立支援概要」等のパンフレットを、ここ数年続けて配布していることから、配布していない。 今後は、新島連絡協議会、広報及び商工会等を通してPRしていきたい。
再雇用制度導入への働きかけ	育児休業など各種制度の定着と利用しやすい環境づくりとともに、再雇用制度の導入などへの働きかけのための啓発活動に努めます。	住民グループ	新島連絡協議会との行政懇談会において、21世紀職業財団が発行している「両立支援概要」等のパンフレットを、ここ数年続けて配布していることから、本年度は配布していない。 今後は、新島連絡協議会、広報及び商工会等を通してPRしていきたい。	新島連絡協議会との行政懇談会において、21世紀職業財団が発行している「両立支援概要」等のパンフレットを、ここ数年続けて配布していることから、配布していない。 今後は、新島連絡協議会、広報及び商工会等を通してPRしていきたい。

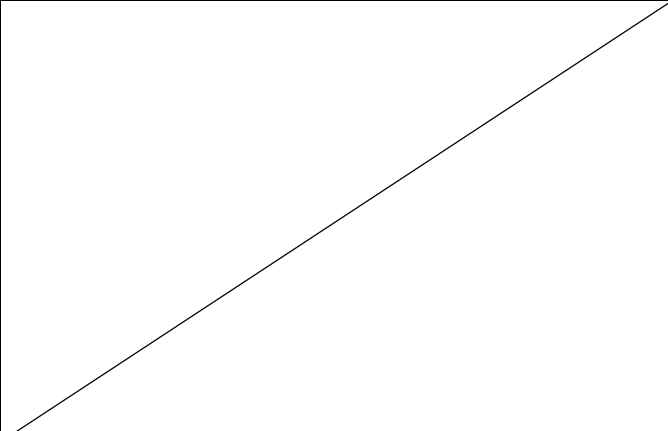
(2) 家庭と子育ての両立がしやすい職場環境の整備に向けた啓発

主要な施策(事業)	取組み方針	グループ	平成21年度評価	平成22年度評価
事業所内保育所設置への働きかけ	町内の事業所を対象に、勤務が不規則な就業者の家庭の子育てを支援するため、事業所内保育所の設置への働きかけに努めます。	住民グループ	新島連絡協議会との行政懇談会において、21世紀職業財団が発行している「両立支援概要」等のパンフレットを、ここ数年続けて配布していることから、本年度は配布していない。 今後は、新島連絡協議会、広報及び商工会等を通してPRしていきたい。	新島連絡協議会との行政懇談会において、21世紀職業財団が発行している「両立支援概要」等のパンフレットを、ここ数年続けて配布していることから、配布していない。 今後は、新島連絡協議会、広報及び商工会等を通してPRしていきたい。
ファミリーフレンドリー企業の普及・啓発	町内の事業所を対象に、就労者が家庭生活と仕事を両立しながら十分に能力を発揮して働くことができる人事労務管理の必要性を啓発するとともに、就労者の家庭と仕事の両立に十分配慮し、多様でかつ柔軟な働き方の選択を可能とするように企業への働きかけに努めます。	住民グループ	新島連絡協議会との行政懇談会において、21世紀職業財団が発行している「両立支援概要」等のパンフレットを、ここ数年続けて配布していることから、本年度は配布していない。 今後は、新島連絡協議会、広報及び商工会等を通してPRしていきたい。	新島連絡協議会との行政懇談会において、21世紀職業財団が発行している「両立支援概要」等のパンフレットを、ここ数年続けて配布していることから、配布していない。 今後は、新島連絡協議会、広報及び商工会等を通してPRしていきたい。
特定事業主行動計画の推進	職員が仕事と子育ての両立を図ることができるよう、一人ひとりが計画の内容を自分自身に関するものと捉え、職場単位で取り組み、職場環境の改革を目指します。	総務グループ		数値目標については、一定の成果をあげているところではありますが、引き続き同計画の趣旨に沿って取り組んで生きたい。

〔2〕多様な就労形態への働きかけ

男女ともに仕事と子育てを両立できる職場環境や、ゆとりある家庭生活の実現を図るため、企業等に対してフレックスタイム制、在宅就労等の勤務形態の弾力化など、ワーク・ライフ・バランスの実現を目指した多様な働き方について普及・啓発に努めます。

主要な施策(事業)	取組み方針	グループ	平成21年度評価	平成22年度評価
労働時間短縮への働きかけ	町内の事業所を対象に、労働時間短縮を促進するため、国・県の普及パンフレットや資料の配布などにより週40時間労働制に関する啓発活動に努めます。	住民グループ	新島連絡協議会との行政懇談会において、21世紀職業財団が発行している「両立支援概要」等のパンフレットを、ここ数年続けて配布していることから、本年度は配布していない。 今後は、新島連絡協議会、広報及び商工会等を通してPRしていきたい。	新島連絡協議会との行政懇談会において、21世紀職業財団が発行している「両立支援概要」等のパンフレットを、ここ数年続けて配布していることから、配布していない。 今後は、新島連絡協議会、広報及び商工会等を通してPRしていきたい。
フレックスタイムや在宅就労等の勤務形態の多様化への働きかけ	町内の事業所を対象に、家庭と仕事の両立を図り、ゆとりある生活が送れるよう、フレックスタイム制や子育て期の短縮時間勤務、在宅就労など多様な勤務形態導入への働きかけに努めます。	住民グループ	新島連絡協議会との行政懇談会において、21世紀職業財団が発行している「両立支援概要」等のパンフレットを、ここ数年続けて配布していることから、本年度は配布していない。 今後は、新島連絡協議会、広報及び商工会等を通してPRしていきたい。	新島連絡協議会との行政懇談会において、21世紀職業財団が発行している「両立支援概要」等のパンフレットを、ここ数年続けて配布していることから、配布していない。 今後は、新島連絡協議会、広報及び商工会等を通してPRしていきたい。

<p>ワーク・ライフ・バランスに関する意識啓発の推進</p>	<p>町内の事業所を対象に、ワーク・ライフ・バランスの推進が業務の効率化や企業イメージの向上につながることに付いて啓発を行います。</p>	<p>住民グループ 福祉グループ</p>		<p>【住民グループ】 平成22年度は、冊子の配布などのPR活動は行っていません。 今後は、新島連絡協議会、広報及び商工会等を通してPRしていきたい。</p> <p>【福祉グループ】 「パパ応援プログラム」を実施する中で、「働き方」について考え、子育てに関わることの大切さを学ぶことから、ワークライフバランスの推進を図りたい。</p>
--------------------------------	---	--------------------------	---	---

2. 男女が共同し取り組む子育ての推進

主要施策

- 〔1〕男女共同参画に関する意識啓発の推進
- 〔2〕男性の子育て・家庭生活への参加促進

【主要施策】

- 〔1〕男女共同参画に関する意識啓発の推進

固定的な性別役割分担意識を見直し、男女平等や男女共同参画の意識を定着させるため、家庭教育や学校教育、生涯学習において男女共同参画に関する意識啓発を推進します。

主要な施策（事業）	取組み方針	グループ	平成21年度評価	平成22年度評価
学校・園における男女平等教育の推進	学校園における男女平等教育の推進を図るため、教職員等への啓発活動を行います。	学校教育グループ	年間の研修プログラムに入れて実施した。	年間の研修プログラムに入れて実施した。
男女共同参画社会を目指しての学習	播磨町人権・同和教育研究協議会女性推進協議会と女性活動活性化事業と連携しながら、男女共同参画社会の実現を目指すための学習機会の充実に努めます。	生涯学習グループ	女性活動活性化事業推進協議会が、研修会を企画し2回実施し、広く住民に学習機会を提供した。	女性活動活性化事業推進協議会が、研修会を企画し2回実施し、広く住民に学習機会を提供した。
仕事と家庭的責任の両立支援	男女がともに仕事と家庭的責任を両立しながら、自分らしい生き方を選択できる社会の創出を目指して、性別による固定的な役割分担意識の解消のため、職場や家庭など広く啓発の充実に努めます。	生涯学習グループ	研修会の実施や「ともに生きようふれあいのまち講演会」において男女共同参画をテーマとした講演会を開催することにより、男女の固定的な役割分担の是正とともに、職場や家庭においても男女共同参画を実践していくよう啓発に努めた。	男女共同参画に関するパンフレット等の配布により、啓発に努めた。

〔2〕男性の子育て・家庭生活への参加促進

男女共同参画意識の普及・啓発の推進とともに、男性の家事や子育てへの参加など、男性の家庭生活へのかかわりを促す取り組みを充実します。

主要な施策（事業）	取組み方針	グループ	平成21年度評価	平成22年度評価
<p>男性向け家庭生活講座等の開催</p>	<p>男女共同参画意識の普及・啓発の推進とともに、男性の家事や子育てなど家庭生活への主体的な参加を促進するため、男性向けの料理教室や育児教室など家事や子育てに関する知識・技能が身に付けられる学習機会の充実に努めます。</p>	<p>福祉グループ すこやか環境グループ 生涯学習グループ</p>	<p>【福祉グループ】 保育園や南北子育て支援センターで、父親の育児参加に関する講座等の情報提供を行った。 また、「パパ応援プログラム」として育児への理解を深めるためのグループワーク形式での講座を実施した。今後も引き続き情報提供に努めるとともに、各種行事への父親の参加を促す。 【すこやか環境グループ】 「両親学級」では、妊婦シミュレーション体験・沐浴実習等を行うことで、子育てに主体的に臨めるように支援した。 (参考)平成21年度 「両親学級」父親参加数 延33人 平成22年度は父親の参加を増やすため、「両親学級」を土曜日に実施する予定である。 また「思春期体験学習」に父親もゲストティーチャーとして参加してもらうことで、男性の家事・子育てへの参加を中学生にも伝えていく予定である。 【生涯学習グループ】 研修会の実施や「ともに生きようふれあいのまち講演会」において男女共同参画をテーマとした講演会を開催することにより、男女の固定的な役割分担の是正とともに、職場や家庭においても男女共同参画を実践していくよう啓発に努める。</p>	<p>【福祉グループ】 保育園や南北子育て支援センターで、父親の育児参加に関する講座等の情報提供を行った。 また、「パパ応援プログラム」として育児への理解を深めるためのグループワーク形式での講座を実施した。今後も引き続き情報提供に努めるとともに、各種行事への父親の参加を促す。 【すこやか環境グループ】 平成22年度は父親の参加を増やすため「両親学級」を土曜日に開催し、妊婦シミュレーション体験等を通して、男性の家事・子育てへの参加を啓発した。 (参考)平成22年度 「両親学級」父親参加数 延35人 また「思春期体験学習」に父親もゲストティーチャーとして参加してもらい、男性の家事・子育てへの参加を中学生に伝えた。 【生涯学習グループ】 中央公民館において、男性を対象とした料理教室「フレンチクッキング」を実施した。</p>
<p>男性の育児休業・介護休業取得に向けた事業所への働きかけ</p>	<p>事業所に対し、子育ての社会的役割の重要性や家庭における男女共同責任の認識を浸透させる学習機会の充実とともに、育児休業や介護休業など諸制度の男性の利用促進について啓発に努めます。</p>	<p>住民グループ</p>	<p>新島連絡協議会との行政懇談会において、21世紀職業財団が発行している「両立支援概要」等のパンフレットを、ここ数年続けて配布していることから、本年度は配布していない。 今後は、新島連絡協議会、広報及び商工会等を通してPRしていきたい。</p>	<p>新島連絡協議会との行政懇談会において、21世紀職業財団が発行している「両立支援概要」等のパンフレットを、ここ数年続けて配布していることから、配布していない。 今後は、新島連絡協議会、広報及び商工会等を通してPRしていきたい。</p>

第5節 子どもが安心・安全に行動できる地域づくり

1. 子どもにやさしい生活環境づくり

主要施策

- 〔1〕身近な遊び場の整備・充実
- 〔2〕子どもの健全育成活動の推進
- 〔3〕子どもと子育て家庭にやさしいまちづくり

【主要施策】

〔1〕身近な遊び場の整備・充実

子どもが「遊び」を通じて創造性や社会性、協調性を身に付け、豊かな人間関係の基礎を築くことができるよう、安全にのびのびと遊ぶことができる環境の整備を推進します。

(1) 遊び環境の充実

主要な施策（事業）	取組み方針	グループ	平成21年度評価	平成22年度評価
地域の公園や広場の充実	地域の子供達が気軽に遊べ、自然と親しみ、地域住民とふれあえる遊び場として町内各地区に設置されている公園や広場を充実し活用を促進するとともに、子どもが安全にのびのび遊べる環境づくりに努めます。	土木グループ	自治会管理公園（3か所）の遊具の設置・改良・撤去費の一部を補助した。 補助した自治会公園（自治会） 宮北公民館前公園（宮北自治会） 野添住吉神社公園（宮山自治会） 古宮大歳神社内児童遊園地（古宮連合自治会）	自治会管理公園（2か所）の遊具の改良・撤去費の一部を補助した。 補助した自治会公園（自治会） 新幹線第6児童公園（本荘・古田南自治会） 新幹線第5児童公園（大中西自治会）
異年齢同士がふれあえる機会や場づくり	保育所、幼稚園、小・中学校をはじめ福祉施設や地域の各種施設を、子どもの遊び場や地域住民と子どもとの交流の場、子どもと高齢者のふれあいの場、子育てサークルの活動の場など子育て支援の拠点として有効に活用します。	福祉グループ すこやか環境グループ 学校教育グループ 生涯学習グループ	【福祉グループ】 保育園や子育て支援センターにおいて、異年齢間の世代間交流によるふれあい活動を実施した。 【すこやか環境グループ】 町内2校の中学3年生を対象に、思春期体験学習を実施し、乳幼児とふれあう交流の場を提供した。 【学校教育グループ】 「トライやる・ウィーク」を通して校種間の交流ができた。小中の連携も行事等を中心に充実した。高齢者との交流は幼稚園や小学校低学年でカリキュラム化されている。今年度は、「学校支援地域本部事業」を中心により活性化させていく予定をしていたが、新型インフルエンザの流行で活動は十分にできなかった。 【生涯学習グループ】 各施設での「トライやる・ウィーク」での中学生の受け入れや、放課後子ども教室で地域の高齢者及び地域住	【福祉グループ】 保育園や子育て支援センターにおいて、異年齢間の世代間交流によるふれあい活動を実施した。 【すこやか環境グループ】 町内2校の中学3年生を対象に、思春期体験学習を実施し、中学生と乳児・子育て中の母親（父親）とがふれあう場を提供した。 【学校教育グループ】 「トライやる・ウィーク」を通して校種間の交流ができた。小中の連携も行事等を中心に充実した。今年度は、新島連絡協議会の協力を得て、新規事業所の開拓が実現した。高齢者との交流は幼稚園や小学校低学年でカリキュラム化されている。また、「学校支援地域本部事業」の活用が進んだが、学校のニーズとボランティアの希望が適合していないことが課題である。

			民ボランティアとの交流を行っている。	<p>【生涯学習グループ】</p> <p>放課後子ども教室で地域の高齢者及び地域住民ボランティアとの交流を行っている。</p> <p>22年度もコミセン区単位で、子どもから高齢者が参加するふれあい運動会やコミセン祭り、レクリエーションスポーツ大会などの地域活動が、学校や各種施設を利用して活発に実施された。</p>
--	--	--	--------------------	---

(2) スポーツ・レクリエーション活動の機会の提供

主要な施策(事業)	取組み方針	グループ	平成21年度評価	平成22年度評価
地域スポーツ活動の推進	総合型地域スポーツクラブとして運営しているNPO法人「スポーツクラブ21 はりま」と連携し、子どもから高齢者、障がいのある人まで、誰もが地域で日常的に取り組めるスポーツ活動を推進します。また個人の体力に合った運動プログラムの指導・事業を展開します。	生涯学習グループ	「スポーツクラブ21 はりま」と連携を図り、子どもから高齢者の体力テストを実施し、その結果に基づき運動プログラムの指導・事業展開を行った。	「スポーツクラブ21 はりま」において、子どもいきいきスポーツ教室等を継続して実施するとともに、高齢者を対象とした貯筋運動を推進した。
子ども会活動などの充実	地域でのさまざまなスポーツや体験活動などを通して、感性豊かな人間性や健康な体づくりを推進するため、子ども会活動などを支援します。	生涯学習グループ	4校区の子ども会が合同で、春にスポーツ大会を実施し秋には芸術鑑賞会を実施した。	4校区の子ども会が合同で、春にスポーツ大会を実施し、夏には芸術鑑賞会を実施した。

(2) 子どもの健全育成活動の推進

家庭や学校での教育だけでなく、住民一人ひとりが子どもの健全育成に理解を深め、家庭、学校、地域が連携した子どもの健全育成を図る地域づくりを推進します。また、家庭、地域、学校、警察など関係団体が連携し、地域安全活動の強化、犯罪を誘発するような社会環境の浄化、青少年非行の防止、自主防犯思想の啓発・普及など地域の安全を確保する活動を推進します。

(1) 大人のモラル向上に向けた取り組みの充実

主要な施策(事業)	取組み方針	グループ	平成21年度評価	平成22年度評価
「大人が変われば、子どもも変わる運動」の推進	大人自身が姿勢を正し、モラルの向上に努めながら、地域の教育力を高める取り組みを推進します。地域で活動する少年補導委員や地域教育推進委員を中心に幅広い啓発活動に取り組めます。	学校教育グループ	少年補導委員は、街頭補導活動だけでなく、コンビニやビデオレンタル店等に協力を要請し町内環境浄化活動など、幅広く啓発に取り組んだ。	少年補導委員は、街頭補導活動だけでなく、コンビニやビデオレンタル店等に協力を要請し町内環境浄化活動など、幅広く啓発に取り組んだ。特に今年度は、兵庫県青少年愛護条例の啓発を事業所訪問するなかで実施した。

(2) 子どもの成長にふさわしい環境整備のための活動

主要な施策(事業)	取組み方針	グループ	平成21年度評価	平成22年度評価
社会環境の点検活動の推進	深夜飲食店、カラオケボックス等の遊興施設、非行少年少女のたまり場など、社会環境の悪化につながる場所の実態把握等に努め、青少年育成推進委員会で関係団体との連携を進めます。	学校教育グループ	少年補導委員が中心となり、実態把握に努めるとともに、青少年育成推進委員会で関係団体との連携ができた。	少年補導委員が中心となり、実態把握に努めるとともに、青少年育成推進委員会で関係団体との連携ができた。少年補導委員の人員確保に課題がある。
青少年対策事業の推進	暴走族追放・少年非行防止街頭啓発活動を実施し、青少年の健全育成を促進します。	学校教育グループ	学警連絡(学校と警察との連絡会)や青少年育成推進委員会などで、情報を交換するとともに連携を図られた。	昨年度に引き続き、学警連絡(学校と警察との連絡会)や青少年育成推進委員会などで、情報を交換するとともに連携を図られた。
青少年問題協議会などの活動の充実	青少年問題協議会などの啓発活動を充実し、住民の健全育成に対する理解促進と健全育成にふさわしい環境づくりに取り組みます。	生涯学習グループ	年間の取組み・テーマに沿って、住民の意識改革と啓発に努めた。	年間の取組み・テーマに沿って、住民の意識改革と啓発に努めた。
「広報はりま」などを通じた啓発活動の推進	広報紙などを通じ、青少年の健全育成に対する理解を深める啓発活動を引き続き実施します。	学校教育グループ 生涯学習グループ	【学校教育グループ】 食育や生活について広報はりまで啓発を行った。 【生涯学習グループ】 年間の取組み・テーマに沿って、住民の意識改革と啓発に努めた。	【学校教育グループ】 少年補導委員の活動内容の紹介、食育や生活について、また、教職員の研修内容の紹介を通して子ども理解のポイント等を広報はりまで啓発した。
地域住民との連携による青少年健全育成活動の推進	各学区組織との連携により地域住民による青少年に対する声かけや街頭啓発などを実施し、地域全体で青少年を見守り育成する環境づくりを促進します。 また、東播磨地域子育てネット交流大会の開催や、さわやか環境パトロールなど、子ども達への声かけ運動を展開し、地域をあげて見守り運動を推進します。	学校教育グループ 生涯学習グループ 危機管理グループ	【学校教育グループ】 青少年育成推進委員会が中心となり、PTAをはじめ関係団体との連携を図り、啓発に取り組んだ。 【生涯学習グループ】 東播磨地域子育てネット交流大会を開催 実施、さわやかパトロール等々、子ども達への声かけ運動を展開し、地域をあげて見守り運動を推進した。	【学校教育グループ】 昨年度に引き続き、青少年育成推進委員会が中心となり、PTAをはじめ関係団体との連携を図り、啓発に取り組んだ。 【生涯学習グループ】 東播磨地域子育てネット交流大会に参加した。さわやかパトロールや子ども達への声かけ運動を展開し、地域をあげて見守り運動を推進した。 【危機管理グループ】 自治会や、防犯団体、シニアクラブ等による防犯パトロールなど、子ども見守り活動を実施した。

〔 3 〕子どもと子育て家庭にやさしいまちづくり

子どもを安心して産み育てることができるよう、子どもや子育て家庭にとって配慮されたやさしい生活環境づくりが引き続き求められています。

子どもや子育て家庭を含め、地域に暮らすすべての人々が安心して暮らすことのできるまちを目指し、道路や歩道、公共施設のバリアフリー化、住環境の整備について、関係機関・団体と連携しながら取り組みます。

(1) 人にやさしい、子ども連れなどに配慮した公共施設の整備促進

主要な施策（事業）	取組み方針	グループ	平成 2 1 年度評価	平成 2 2 年度評価
福祉のまちづくり事業	すべての人に配慮した福祉のまちづくりを推進します。	福祉グループ	高齢者及び障害者が居宅で安心して生活が行なえるよう、住宅改造助成事業を実施した。	高齢者及び障害者が居宅で安心して生活が行なえるよう、住宅改造助成事業を実施した。
公共施設や道路の段差解消などバリアフリー化の促進	子ども連れでも安全かつ安心して外出できるよう、関係機関の連携のもと、既存の公共施設や道路の段差解消などバリアフリー化を引き続き促進します。	公共施設所管グループ	【生涯学習グループ】 各施設を点検し、必要に応じて改善するための検討を実施した。	【土木グループ】 町道土山新島線の歩道の切り下げ改良工事を実施し、歩道の段差解消を行った。
授乳コーナーやおむつ交換台、トイレ内のベビーカーチェアの設置などの推進	公共施設において、ベビーカーや車いすのためのスロープの設置、授乳コーナーやおむつ交換台、トイレ内のベビーカーチェアの設置を引き続き推進するとともに、民間施設に対しても設置協力を働きかけていきます。また、公園などの施設を『保護者からの視点』で点検するなど、子育て家庭と連携しながら推進します。	公共施設所管グループ	【生涯学習グループ】 各施設を点検し、必要に応じて改善するための検討を実施した。 【福祉グループ】 子育て中の親子が利用しやすいよう、南北子育て支援センターを中心に施設を点検した。また、母親クラブでも公園などの施設を『保護者からの視点』で点検する活動などを行った。	【福祉グループ】 子育て中の親子が利用しやすいよう、南北子育て支援センターを中心に施設を点検した。また、母親クラブでも公園などの施設を『保護者からの視点』で点検する活動などを行った。
ユニバーサルデザインの視点に立った施設整備促進	新たに整備する施設等については、ユニバーサルデザインの視点に立ち、子どもを含めたすべての住民が利用しやすい整備を促進します。	公共施設所管グループ	【生涯学習グループ】 各施設を点検し、必要に応じて改善するための検討を実施した。	【土木グループ】 町道土山新島線の歩道の切り下げ改良工事を実施し、歩道の段差解消を行った。

(2) 住環境の整備

主要な施策（事業）	取組み方針	グループ	平成 2 1 年度評価	平成 2 2 年度評価
快適な住環境づくりの促進	良好な住宅の誘導や供給、土地取引などの適正な指導に努め、快適な住環境を誘導します。	都市計画グループ	【都市計画グループ】 良好な住宅の誘導のため、開発指導を 1 6 件実施した。	【都市計画グループ】 良好で快適な住環境づくりとして古宮第 1 地区 3.7ha の地区計画を行い、その地区計画に合わせた建築指導を実施した。
居住者の健康を脅かす新たな問題への対応	アレルギー性疾患やシックハウス症候群など、住宅に起因する健康被害に対する相談・情報提供に努めます。	すこやか環境グループ	原因や症状に応じ適切と考えられる相談機関を紹介した。	原因や症状に応じ適切と考えられる相談機関を紹介した。

2. 子どもが犯罪や事故に巻き込まれない地域づくり

主要施策

〔1〕子どもが犯罪や事故に巻き込まれない地域づくり

【主要施策】

〔1〕子どもが犯罪や事故に巻き込まれない地域づくり

子育て世代が安全・安心に生活することができるよう、良好な居住環境や道路交通環境等の整備に努めるとともに、年齢に応じた交通安全教育など地域の交通安全活動の支援を行い、住民一人ひとりの交通安全意識を高め安全で快適な交通環境の確保に努めます。

また、子ども自身が安全に暮らすことができるよう、犯罪や交通事故の怖さやそれらへの対応を学ぶ機会を設け、子ども自身の自助力の醸成を図ります。

(1) 防犯体制の強化

主要な施策(事業)	取組み方針	グループ	平成21年度評価	平成22年度評価
防犯対策事業の推進	コミュニティ活動の充実に応えるため、施設の整備を進めるとともに、コミュニティ組織による地域安全活動の充実や防犯活動の促進を図ります。	危機管理グループ	10団体に補助金を交付し、コミュニティ組織による地域安全活動の充実、防犯活動の促進を図った。今後も自治会等各種団体における取組みを推進、支援していく。	10団体に補助金を交付し、コミュニティ組織による地域安全活動の充実、防犯活動の促進を図った。今後も自治会等各種団体における取組みを推進、支援していく。
街灯補助事業	地域における犯罪の未然防止と安全で明るいまちづくりを推進するため、自治会が設置する街灯の電気代に対して、引き続き補助金を交付します。	危機管理グループ	例年通り、2月末に交付した。地域における犯罪の未然防止と安全で明るいまちづくりを推進するため、引き続き補助をする。	例年通り、2月末に交付した。夜間における地域での犯罪と事故の未然防止と安全で明るいまちづくりを推進するため、引き続き補助をする。
地域安全事業の推進	各小学校区に設置されている「こどもを守る110番の家」の取組みの充実を図るとともに、学校・地域・警察との連携を強化し、安全な地域コミュニティづくりを推進します。また、携帯電話のメール機能を活用し不審者情報を提供するなど地域での情報共有、防犯への取組みの強化を図ります。登下校の安全については、学校安全ボランティアを中心にPTAやボランティア団体と連携して取り組みます。	学校教育グループ	警察とも連携し、不審者情報は必要に応じて各学校園、コミセンなどに配布した。必要に応じて、教職員の交通安全指導・巡回指導を行った。播磨町における不審者の発生率は近隣市町に比べて少なかった。登下校の安全についてはスクールガードリーダーを中心にPTAやボランティア団体と連携が図れた。また、「こどもを守る110番の家」については、自治会の協力を得た。	警察とも連携し、不審者情報は必要に応じて各学校園、コミセンなどに配布した。必要に応じて、教職員の交通安全指導・巡回指導を行った。今年度も、播磨町における不審者の発生率は近隣市町に比べて少なかった。登下校の安全についてはPTAやボランティア団体と連携が図れた。また、「こどもを守る110番の家」については、自治会の協力を得た。また、今年度は老朽化した「子どもを守る110番」の家のステッカーの更新をした。
子ども自身の防犯意識の向上	子どもが犯罪に遭わないようにするため、防犯教室やCAP学習等の防犯指導を行い、子ども自身の防犯に対する意識の向上を図ります。	危機管理グループ 学校教育グループ		<p>【危機管理グループ】</p> <p>子どもが犯罪や事故に遭わないよう、青色パトロールカーによる防災意識の向上と啓発活動を実施している。</p> <p>【学校教育グループ】</p> <p>防犯教室やCAP研修を実施するとともに、小学校高学年、中学生には思春期教育を行った。</p>

(2) 安全な学校施設の整備

主要な施策(事業)	取組み方針	グループ	平成21年度評価	平成22年度評価
学校の安全確保を図る取り組みの推進	最近の学校での犯罪発生を踏まえ、来訪者を確認できる施設整備計画や見通しの確保、通報システムの各教室への導入など対策が求められていることから、マニュアルに沿った防犯訓練やプロによる実地研修を行うなど、学校での安全確保を図る取り組みを推進します。	教育総務グループ 学校教育グループ	県警ホットライン、門扉施錠システムなどの対策を講じている	県警ホットライン、門扉施錠システムなどの対策を講じている。各学校園の計画に沿った防犯教育を実施している。

(3) 交通安全の啓発

主要な施策(事業)	取組み方針	グループ	平成21年度評価	平成22年度評価
交通安全教育・啓発事業の推進	保育所や幼稚園、小学校において、警察の協力のもと、講話やビデオ、実技指導などによる交通安全教室を実施します。また、子どもが正しい交通ルールを学び、交通事故の防止につながるよう啓発活動を引き続き推進します。	危機管理グループ	【すこやか環境グループ】 全保育園や幼稚園、小学校における交通安全教育の実施及び、交通公園や校庭での衝突・巻き込み実験を実施した。今後も各園校年1回警察の協力を得て交通安全教室を引続き開催する。 【福祉グループ】 3人乗り自転車モニター制度を実施し、交通安全意識の向上に努めた。	【危機管理グループ】 保育園や幼稚園、小学校における交通安全教室を警察の協力を得て実施した。今後も交通安全教室を引続き開催する。 【福祉グループ】 3人乗り自転車レンタル制度を実施し、講習会を行い交通安全意識の向上に努めた。
シートベルト、チャイルドシートの正しい使用方法の啓発	自動車運転時の事故による死亡者を減らすため、シートベルトの着用義務及びチャイルドシートの正しい使用について、あらゆる機会・媒体を通じて積極的に広報・啓発活動を展開します。	危機管理グループ	土山駅及び播磨町駅前において、加古川警察署及び播磨町交通安全連絡協議会と共に街頭啓発活動を実施した。また、擬似パトカー巡回時にシートベルト着用義務を周知する広報を実施した。今後も交通安全週間に啓発活動を引続き実施する。	全国交通安全運動期間中に、土山駅及び播磨町駅前、加古川警察署及び播磨町交通安全連絡協議会と共に街頭啓発活動を実施した。今後も引き続き啓発活動を実施する。
児童等の安全な自転車利用の推進	改正道路交通法の施行により、自転車乗用中の幼児・児童のヘルメット着用が努力義務となっていることから、ヘルメットの着用促進を図ります。また、平成21年7月より使用が認められた幼児2人を乗せることができる3人乗り自転車の普及啓発に努めます。	危機管理グループ 福祉グループ		【福祉グループ】 3人乗り自転車のレンタル事業を行い、3人乗り自転車の普及啓発に努めた。

(4) 安全な通園・通学路の確保

主要な施策(事業)	取組み方針	グループ	平成21年度評価	平成22年度評価
<p>通園・通学路の安全確保の推進</p>	<p>通園・通学路の安全点検を実施するとともに、子どもや車いすに配慮した段差の解消などのバリアフリー化や防犯灯設備の充実など、通園・通学路の安全確保を推進します。 また、学校安全ボランティアの活動を支援し、子どもたちの通園・通学の安全確保を図ります。</p>	<p>学校教育グループ 教育総務グループ 危機管理グループ 土木グループ</p>	<p>【教育総務グループ】 登下校(園)時の幼児、児童、生徒の道路における交通の安全を保持するため、交通安全街頭指導員を配置しているが、平成21年度は、新たに2箇所交通指導員を配置した。</p> <p>【すこやか環境グループ】 小学校周辺の安全を点検する交通安全総点検を実施した。また、通園・通学路周辺における、交通安全施設及び防犯灯等の整備及び維持管理を行なった。</p> <p>【土木グループ】 町道二子五反田北線の歩道の切り下げ工事を実施し、歩道の段差解消を行った。</p>	<p>【教育総務グループ】 登下校(園)時の幼児、児童、生徒の道路における交通の安全を保持するため、平成22年度も交通安全街頭指導員を配置した。</p> <p>【危機管理グループ】 交通安全運動期間中に、小学校周辺の安全を点検する交通安全総点検を実施した。また、通園・通学路周辺における、交通安全施設及び防犯灯等の整備及び維持管理を行った。</p> <p>【土木グループ】 町道土山新島線の歩道の切り下げ改良工事を実施し、歩道の段差解消を行った。</p>